

科目名	教育心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児や児童についての理解を深め、保育・教育をより効果的に進めるための、心理学的知見を学ぶ。テーマとしては、子どもの発達、学習や認知、性格、適応などを取り上げるほか、障害のある子どもを理解し、より適切な保育を進めるためのカウンセリングや学習指導などについても、教育心理学の立場から考察する。

内容

- (1) 教育心理学とは何か： 教育心理学の歴史、 教育心理学の課題、 教育心理学の研究法
- (2) 発達理論： 発達とは、 さまざまな発達理論の紹介とその比較
- (3) 発達段階の心理： 乳幼児期、 児童期、
- (4) 発達段階の心理： 思春期・青年期、 成人期・老人期
- (5) 学習理論： 学習とは、 古典的条件付けと道具的条件付け、 学習性無力感、 保育・教育と「学習」
- (6) 記憶： 記憶の過程と種類、 乳幼児期の記憶、 児童期の記憶
- (7) 知能： 知能とは、 知能の発達を規定する要因、 知能の評価、 言語の発達と障害
- (8) 性格・人格の理解： 人格・性格とは、 乳児の気質、 様々な人格・性格論、 人格・性格の評価、 性格の形成、 子どもにおける性格の理解
- (9) 適応： 適応とは、 欲求、 コンフリクトとフラストレーション、 適応機制、 子どもの感じるストレスとストレスを乗り越える力、 子どものストレスへの援助
- (10) カウンセリング： カウンセリングとは、 カウンセリングの領域、 カウンセリングの理論と技法
- (11) 保育・教育と評価、学習指導： 日本の幼児教育と学校教育、 教育評価の目的と手続き、 評価基準と評価方法、 学習の動機づけ、 保育・教育の形態と方法、 個人差の考慮
- (12) 心の健康： メンタルヘルスにおける教師の役割、 いじめと不登校
- (13) 障害児の理解と教育： 障害の種類、 障害理解の段階と心理的側面、 障害理解教育の必要性、 障害児に対する教育の実践
- (14) まとめ
- (15) 試験

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】北尾倫彦・中島実・林龍平・廣瀬雄彦・高岡昌子・伊藤美加著 『精選コンパクト教育心理学』 北大路書房
無藤隆・清水益治編著 『保育心理学』 北大路書房
- 【推薦書】無藤隆・麻生武編著 『教育心理学』 北大路書房

科目名	理科概説		
担当教員名	井口 磯夫、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校の理科は第3 学年以上からの学習となる。その内容は、「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3 つの区分で構成されている。中学年から高学年にかけて問題解決的な学習と体験的な活動が重視されている。また、中学校以上の理科の基礎としての内容は、確実に身に付けさせておく必要がある。

理科は、自然科学を学習する教科であり、その目的は、自然科学の基本的な事実と法則を児童・生徒の身体的・精神的能力の発達段階にふさわしい内容と順序をもって、正確に理解させることである。青少年の「理科離れ・科学離れ」が社会問題となって久しい。この授業では、日本の理科教育の歴史をたどりながら、この問題の本質を探る。

内容

1. 科学の基本構造、理科教育の目的と目標
2. 理科教育の歴史、理科教育の現状と問題点
3. 授業計画 理科という教科：理科教育、理科の学習
4. 自然とその探究：自然の広がり、自然の探究
5. 地球の成り立ち：地球の誕生、大陸移動
6. 太陽系の構成：太陽、惑星
7. 宇宙の広がり：銀河系と宇宙
8. 生物の進化：生命の誕生、進化
9. 生命のつながり：発生と遺伝、生態系
10. 物質の構造：原子、イオン、結晶
11. 物質の性質と変化：酸と塩基、酸化と還元
12. 物体の運動：落下運動、力学的エネルギー
13. 電気とその性質：電流、電流と磁界
14. 科学技術の進展と課題：エネルギー、資源、環境
15. テスト

評価

実験レポート(40%)、最終テスト(40%)、授業中の課題への取組(10%)、出席率(10%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『未来を展望する理科教育』 東洋館出版社

『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部省

【推薦書】『新しい理科教授学習論』 小川正賢監訳 東洋館出版社 375.42/H

科目名	教育方法		
担当教員名	井口 磯夫、狩野 浩二、横須賀 薫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。

同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「マルチメディア活用」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、修得してほしい分野である。

内容

1. 教育の方法と技術(教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など)
2. 授業が目指すものは何か(授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性など)
3. 授業の構想と計画(構想と計画の基本的視点、指導案をどう書くか、指導案を支える教材研究)
4. 指導案作成(実習課題)
5. 教えることと支援すること(本気で教えること、学習支援と称して放置すること)
6. 問いの創造と授業の展開(問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態)
7. 教材づくり・教材発掘の視点(教材づくり・教材発掘の視点、教材研究)
8. 授業と教授メディア(教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか)
9. コンピュータの利用(コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割)
10. 学習障害(LD)の理解と指導(学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法)
11. 特別支援教育と方法・技術(特別支援教育、Normalization、ADHD)
12. 授業と教師(教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば)
13. 教育評価の役割と方法
14. 学力と教育評価の課題(予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力)
15. テスト

評価

評価は、授業態度(出席状況や、授業中の課題への取り組み状況)を10%、課題の提出状況と達成度を40%、最終試験の達成度を50%とし、全体の60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】松平信久・横須賀薫編 『新訂教育の方法・技術』 教育出版

【参考図書】岩波講座『教育の方法』10巻シリーズ

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「個々の幸せ」の実現を目指す社会福祉においては、制度や福祉システムの構築と整備、施設や組織の充実が、人との出会いが不可欠である。同時にこれらの制度や資源を機能的に協働させるためには、マンパワーとして科学的な方法、援助も必要となる。この授業では、子どもが育つ場がかかわる医療・保健・福祉・教育等の機関の事例を基軸に、保育士として求められる知識と技術を習得することを目的とする。

内容

- (1) 社会福祉援助技術とは(1回)
- (2) 人との向き合い、社会との向き合い(3回)
 - ・ 保育者としての基本的な姿勢とは - 自己理解と倫理観を問う
 - ・ 保育実践と社会福祉援助技術との関係とは - 直接的援助技術と間接的援助技術
- (3) 個別援助技術(4回)
 - ・ 個別援助技術の意義
 - ・ 個別援助技術の原則と展開
 - ・ 個別援助技術における面接・記録・評価
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (4) 集団援助技術(3回)
 - ・ 集団援助技術の意義
 - ・ 集団援助技術の方法と展開
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (5) 地域援助技術(2回)
 - ・ 地域援助技術の意義と可能性
 - ・ 地域援助技術の実践例に学ぶ
- (6) 実践演習(2回)

評価

期末のレポート(60%)、授業内のレポート(20%)、授業への参加(20%)の姿勢などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】今井章子監修・上野恭裕編著 『- 事例から学ぶ - 子どもを育む母親援助の実際』 保育出版社 376.1/U
- 【参考図書】成清美治・加納光子・久保美紀編著 『社会福祉援助技術』 学文社

科目名	児童保健学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは成長発達の途上にあつて、無限の可能性と個性をもち、社会の一員として生活している1人の人間である。それは障がいや疾病を持っている子どもたちであっても例外ではない。しかし障がいや疾病を持っている子どもたちは周囲からの理解や支援をより必要とし、それらが彼らの今後の成長発達に大きな影響を及ぼす。

ここでは、子どもの障がいや疾病に関する基本的な医学知識と障がいや疾病が子どもの心身や日常生活に及ぼす影響を理解し、発達促進に向けての援助の視点および家族への援助など療育のあり方について学習する。

内容

- ・障がいのある子どもと家族に対する支援(概論)
- 1. 障がいの概念と障がいの要因
- 2-3. 子どもや家族の障がい受容過程と支援
- ・障がいや疾病に関する基本的な医学知識と成長発達や生活に及ぼす影響および援助(各論)
- 4. 脳神経の発達
- 5-6. 運動機能障がいと脳性麻痺
- 7. 聴覚言語障がいと視覚障がい
- 8. 知的障がい(精神遅滞)
- 9. 広汎性発達障害
- 10. 学習障害、ADHD
- 11-13. 重症心身障害児
- ・疾病や入院が子どもに及ぼす影響と病棟保育士の役割
- 14. 院内保育
- ・まとめ
- 15. 試験

評価

授業への参加状況(10点)、レポート(10点)、期末試験(80点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】前川喜平他編著 『障害児と病児のための発達理解と発達援助』(別冊発達22) ミネルヴァ書房

【推薦書】松本昭子・土橋圭子編 『発達障害児の医療・療育・教育』 金芳堂 493.937/H

小枝達也編著 『ADHD、LD、HFPDD、軽度MR児 保健指導マニュアル ちょっと気になる子どもたちへの贈り物』 診断と治療社 493.937/K

【参考図書】毛利子来・山田真・野辺明子編著 『障害をもつ子のいる暮らし』 筑摩書房

科目名	表現演習		
担当教員名	金勝 裕子、清水 玲子、平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

“表現”は「人間学」を学ぶ上で欠かせない重要な視座である。それは乳児が幼児へ、そして児童へと「人として育つ」ための意味や意義を理解し、その育ちを保障する領域としての“表現”の視座は重要である。そうした子どもたちの未来に関わる重大さを意識した時、人的な環境となる「保育・教育者、親」の感性や行動が大きな影響力になっていることに着目しなくてはならない。

そうした乳幼児期～児童期に望ましい存在としての「保育・教育者」を目指す時、“表現すること・受けること”を身をもって体験する演習を通し感じ考えることがねらいである。そのことは、直接乳幼児～児童と関わるための手段としてばかりでなく、「親」への適切な助言や支援ができる保育・教育者でもあり、親自身となる基盤づくりともなる。また、表現に関わる科目群のそれぞれの基礎科目に先駆けておこなうこの授業の意義は、すでに各々が獲得している表現行動の概念的な感性の問い直しを図ることにもねらいをおいている。言いかえれば表現行動の原体験を通して自己を磨き、さまざまな領域、科目へ進むための基盤を整備充実させることである。

内容

諸感覚を通して感じ考え行動する。そうした一連の行為を表現行動だとすると、感じる前に概念的に判断し行動してしまいやすい...という大人のもつ感性を再認識し自己変革することが目的である。そのためには視・聴・触感覚を中心とした感覚をはたらかせ、動・音・形・色といった表現媒体を駆使できるための基盤づくりであるので、表現媒体の異なった音楽・身体表現・造形のそれぞれをオムニバス風に体験することを主としながら、時には音と動き、動きと形・色、音と形・色といった相互性のある体験も視野に入れて計画している。

「音楽的視座 1」「音楽的視座 2」「造形的視座」の3つの視座で、各5回の授業を計画している。

評価

身をもって体験する演習であるので、授業中の態度や試行錯誤の様子(40%)が重要となる。また感じたこと、考えたり発見したことなどをまとめたノートや時折のレポート(60%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めないが、授業中必要に応じ紹介する。

科目名	表現演習		
担当教員名	金勝 裕子、清水 玲子、平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

“表現”は「人間学」を学ぶ上で欠かせない重要な視座である。それは乳児が幼児へ、そして児童へと「人として育つ」ための意味や意義を理解し、その育ちを保障する領域としての“表現”の視座は重要である。そうした子どもたちの未来に関わる重大さを意識した時、人的な環境となる「保育・教育者、親」の感性や行動が大きな影響力になっていることに着目しなくてはならない。

そうした乳幼児期～児童期に望ましい存在としての「保育・教育者」を目指す時、“表現すること・受けること”を身をもって体験する演習を通し感じ考えることがねらいである。そのことは、直接乳幼児～児童と関わるための手段としてばかりでなく、「親」への適切な助言や支援ができる保育・教育者でもあり、親自身となる基盤づくりともなる。また、表現に関わる科目群のそれぞれの基礎科目に先駆けておこなうこの授業の意義は、すでに各々が獲得している表現行動の概念的な感性の問い直しを図ることにもねらいをおいている。言いかえれば表現行動の原体験を通して自己を磨き、さまざまな領域、科目へ進むための基盤を整備充実させることである。

内容

諸感覚を通して感じ考え行動する。そうした一連の行為を表現行動だとすると、感じる前に概念的に判断し行動してしまいやすい...という大人のもつ感性を再認識し自己変革することが目的である。そのためには視・聴・触感覚を中心とした感覚をはたらかせ、動・音・形・色といった表現媒体を駆使できるための基盤づくりであるので、表現媒体の異なった音楽・身体表現・造形のそれぞれをオムニバス風に体験することを主としながら、時には音と動き、動きと形・色、音と形・色といった相互性のある体験も視野に入れて計画している。

「音楽的視座 1」「音楽的視座 2」「造形的視座」の3つの視座で、各5回の授業を計画している。

評価

身をもって体験する演習であるので、授業中の態度や試行錯誤の様子(40%)が重要となる。また感じたこと、考えたり発見したことなどをまとめたノートや時折のレポート(60%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めないが、授業中必要に応じ紹介する。

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	上垣内 伸子、岩崎 禎子、野口 隆子、宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子ども心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とした、幼稚園における参加観察実習が「幼児教育基礎実習」である。

本学附属幼稚園を含む10 数園の幼稚園に分かれ、隔週で週1 回の実習を行う。また、愛育養護学校（東京都港区にある私立養護学校）小学部、幼稚部にて、1 日の全日実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。

幼児教育専攻の必修科目であり、実習園の受け入れ人数に限りがあるので、実習枠が空いている場合に幼稚園教諭を目指す学生に限って受講できるものとする。履修希望者は、前期オリエンテーション時にその旨を担当者に申し出ること。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1 回、登園前から降園後まで1 日の実習を行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4 日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4 日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

3 年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習を通して試みる。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもち。

3. 養護学校小学部・幼稚部参加実習

初めて出会った子ども共にその日1 日を形成することを通して、子どもを理解し、自らの保育行為について省察することに努める。

保育後には養護学校でのミーティングに参加する。

評価

1. すべての実習への参加と、実習日誌の期限内に提出を、単位取得の必要条件とする。
2. 実習参加状況、実習態度および意欲、レポート内容、話し合いへの参加状況等により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	上垣内 伸子、岩崎 禎子、野口 隆子、宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習および愛育養護学校小学部・幼稚部での参加実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習の翌週に、20人規模での演習を行う。

“計画 実践 省察”という保育実践の連続性の中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、それを自らの保育行為において具現化していくことの実際を体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

受講条件は「幼児教育基礎実習」と同様である。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い / 愛育参加実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習および愛育実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認したり、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、実習日誌や課題の提出および内容、話し合いへの参加状況を6:2:2の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「幼児教育基礎実習」に準じる。さらに以下の推薦書を加える。

【推薦書】

津守 真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T

津守 真 『保育の体験と思索』 大日本図書 376.1/T

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、垂水 謙児、向井 美穂 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「保育実習」「保育実習」、「保育特別実習」「保育特別実習」「保育特別実習」、「幼稚園教育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も必要に応じて受講する必要がある。

内容

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

【前期の主なテーマ】

< 「保育実習」「保育実習」の事前指導 >

- ・ 本学における実習指導と実習のあり方（実習計画）
- ・ 各実習の目的と方法、心構え
- ・ 実習での学びの内容（実習日誌の意義と書き方含）

< 「保育実習」「保育実習」の事後指導 >

- ・ 実習の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・ 実習課題（自己課題、保育課題）の確認

【後期の主なテーマ】

< 3 年次「幼稚園教育実習」の事前指導 >

- ・ 3 年次「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え
- ・ 実習内容の確認（実習日誌の意義の書き方、教材研究含）

< 「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」の事前指導 >

- ・ 各実習の目的と方法
- ・ 実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4 年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育・教育特別実習		
担当教員名	上垣内 伸子、垂水 謙児、野口 隆子、向井 美穂 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育・教育特別実習は、免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上、その他の目的が考えられるが、課題が具体的であることを条件とする。

3 年次および4 年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、それに先立つ個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持って実習に臨んでもらいたい。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1 日実習(12 日程度)の実習

2 週間継続実習

1 週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況によって総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育実習		
担当教員名	神山 輝夫、井口 磯夫、狩野 浩二、黒瀬 任通 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係る事前事後の指導を行うことをねらいとして、教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む留意点、心構えをはじめ、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義・演習をします。

教育事後において実際に学んだ実習について発表・協議をします。

内容

1	教育実習の意義・教育実習に求められるもの
2	教育実習の目的
3	教育実習の概要とその進め方
4	教育実習の実際：教育実習の一日と服務
5	教育実習の実際：学校組織と運営
6	教育実習の実際：学校教育目標と教育課程
7	教育実習の実際：授業のあり方と進め方
8	教育実習の実際：学習指導案の作成
9	教育実習の実際：学習指導案の作成
10	教育実習の実際：学習指導案の作成・協議
11	小学校就学前の幼児を知る
12	小学校就学前の幼児を知る
13	教育実習への直前指導・教育実習への留意点
14	教育実習事後指導：教育実習を終了して発表・協議・自己評価
15	教育実習事後指導：教育実習を終了して発表・協議・自己評価

評価

事前指導におけるレポート、指導案等の取組状況、
事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教職演習		
担当教員名	黒瀬 任通、綾井 桜子、井口 磯夫、狩野 浩二 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期は、小人数によるクラス編成により、専攻専任教員が全員担当して実施する科目である。大学では、学生自らが主体的に、かつ自律的に学習することが求められる。大学での学業生活がより豊かなものになることを目指して、基本的な学習技法・技能(Study Skills)の習得をねらいとする。

後期は、これからの教育職員に求められる資質や能力及び心構えなどについての認識を深めることをねらいとし、これからの学校教育や教育職員のあり方などについて、具体的な課題を取り上げて理解を深める。

内容

前期：Study Skills の習得

1. 大学授業への受講技法(ノートの取り方・まとめ方、試験勉強)
2. テキストの読み方(説明的文章の読み方、論理展開に対する理解、要約のまとめ方)
3. 資料収集とその整理に関する技法(KJ法、資料のファイリング法)
4. レポート作成に関する技法(文章作成・表現技法、全体構成のたて方)
5. 報告・発表に関する技法(プレゼンテーション技法、レジュメ作成法)
6. 話し合いに関する技法(バズセッション、ディベート)
7. 学内ガイダンス(図書館および情報・資料センターの活用、キャリアセンターの活用)

後期：教職演習

1. ガイダンス(教職の社会的使命と目指す教師像)
2. 教師の仕事(教師の日常と職務内容)
3. 教員の身分保障と服務義務
4. 幼児・児童・生徒の発達課題と近年の傾向
5. 様々な問題行動とその対応(いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為など)
6. 学校・家庭・地域の役割と連携における教師の役割
7. 教師のライフステージと研修制度(教師に求められる資質能力)
8. 教職に対する適性と進路選択
9. 公立学校教員の採用状況とその対応

評価

学習テーマ毎に課題を提出し、自己評価・相互評価を参考にして、担当教員が総合的な評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】学習技術研究会 『大学生からのスタディ・スキルズ-知へのステップ』 くろしお出版

科目名	幼児教育基礎論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期の保育者論に続いて保育の基本的理解を目的とする。ここでは、保育する自分から離れて、幼児教育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に幼児教育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。現在わが国では多様な保育方法が実施されている。それらの方法は現在の社会、経済、制度的背景、親からの要請等によっているが、乳幼児に適当な環境、保育方法は常に探求されなければならない。理論と実践の橋渡しをしながら、具体的な実践方法の考察をする。

育児や保育の今日的課題に関心を持って調べる、自分の体験を掘り下げる、実践上の問題点を探るなど保育に対する積極的な態度と自ら考える力を養いたい。

下記の内容をほぼ2回ずつ行う予定である。

内容

テキストに沿い、補助資料を用いる。テーマを作って学生同士の意見交換の時間を設けるので、活発な意見交換を期待したい。

1. 保育の概念と保育者としての発達理解(研究者と実践者)
2. 保育思想の歴史と現代への影響(教育要領、保育指針の精神)
3. 発達理論と保育方法(保育形態や教育課程)
4. 子どもの育ちと環境(自然環境、社会環境、子どもの文化等)
5. 子どもにとっての多様な保育の場、その役割と関連(家庭、幼稚園、保育所、地域社会)
6. 保育の場のダイナミックスの特質(個の育ちと集団の育ち)
7. 子どもの発達の特質と保育環境、教材、人間関係(保育実践法)
8. 多様な実践の事例研究

評価

出席及び授業中の発言 30%、 授業中に出題のレポート 30%、 期末試験 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】後日指定する

【参考図書】倉橋惣三 『育ての心』 フレーベル新書

科目名	幼児教育基礎論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期の保育者論に続いて保育の基本的理解を目的とする。ここでは、保育する自分から離れて、幼児教育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に幼児教育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。現在わが国では多様な保育方法が実施されている。それらの方法は現在の社会、経済、制度的背景、親からの要請等によっているが、乳幼児に適当な環境、保育方法は常に探求されなければならない。理論と実践の橋渡しをしながら、具体的な実践方法の考察をする。

育児や保育の今日的課題に関心を持って調べる、自分の体験を掘り下げる、実践上の問題点を探るなど保育に対する積極的な態度と自ら考える力を養いたい。

下記の内容をほぼ2回ずつ行う予定である。

内容

テキストに沿い、補助資料を用いる。テーマを作って学生同士の意見交換の時間を設けるので、活発な意見交換を期待したい。

1. 保育の概念と保育者としての発達理解(研究者と実践者)
2. 保育思想の歴史と現代への影響(教育要領、保育指針の精神)
3. 発達理論と保育方法(保育形態や教育課程)
4. 子どもの育ちと環境(自然環境、社会環境、子どもの文化等)
5. 子どもにとっての多様な保育の場、その役割と関連(家庭、幼稚園、保育所、地域社会)
6. 保育の場のダイナミックスの特質(個の育ちと集団の育ち)
7. 子どもの発達の特質と保育環境、教材、人間関係(保育実践法)
8. 多様な実践の事例研究

評価

出席及び授業中の発言 30%、 授業中に課題のレポート 30%、 期末試験 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】後日指定する

【参考図書】倉橋惣三 『育ての心』 フレーベル新書

科目名	教育学概論		
担当教員名	狩野 浩二、横須賀 薫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます(順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

1. 学ぶことと教えること
2. 育つことと育てること
3. 学校の登場
4. 近代学校の性格
5. 日本の学校
6. 学力とは何か
7. 教科と道徳教育
8. 教育の内容
9. 教育の方法
10. 教育評価
11. 学校の可能性
12. 生涯学習社会と青年の教育
13. 子どもの権利とは何か
14. 十文字学園の創設と近代女子教育の流れ
15. まとめ

評価

講義で毎回書いてもらう小レポート(20点)、試験(80点)などを総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト(教科書)】田嶋一他著 『やさしい教育原理(新版)』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門(新装判)』 国土社

ルソー 『エミール(改版)上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】教室で随時紹介します。

科目名	教育制度論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育を「制度」の観点からみるということは、成り立ちや仕組みに加え、実際の社会的現実のなかで教育が果たしている役割に目をむけることでもある。本科目では、わが国の学校制度の歴史的変遷について学び、教育制度の基本的原理について理解することを主たるねらいとする。また、今日的な課題について考えるために、公教育制度をはじめとする、近年のわが国の教育改革の動向についてもとりあげたい。

内容

1. 教育制度をめぐって - 教育・教育制度・学校制度・生涯教育(生涯学習支援制度)
2. 学校体系について 単線型・複線型・分岐型、諸外国との比較
3. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 近代学校制度の誕生
4. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 近代学校制度の確立
5. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 戦後の学校制度改革
6. 学校空間の過去と現在
7. 教育基本法について
8. 教育基本法の改正について
9. 公教育制度と基本原理について
10. 公教育を支える基本原則について(無償性・義務性・中立性)
11. 近年の教育改革 学校選択制
12. 近年の教育改革 新しい学校づくり
13. 学力問題について
14. 就学前教育をめぐる現状と制度について
15. 試験

評価

試験60%、授業への参加度20%、出席20%による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】高橋靖直編 『第二版 学校制度と社会』 玉川大学出版部

【推薦書】藤田晃之『新しいスタイルの学校 制度改革の現状と課題』 同時代社

【参考図書】教育制度研究会編 『要説 教育制度 新訂版』 学術図書出版社

科目名	教育制度論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育を「制度」の観点からみるということは、成り立ちや仕組みに加え、実際の社会的現実のなかで教育が果たしている役割に目をむけることでもある。本科目では、わが国の学校制度の歴史的変遷について学び、教育制度の基本的原理について理解することを主たるねらいとする。また、今日的な課題について考えるために、公教育制度をはじめとする、近年のわが国の教育改革の動向についてもとりあげたい。

内容

1. 教育制度をめぐって - 教育・教育制度・学校制度・生涯教育(生涯学習支援制度)
2. 学校体系について 単線型・複線型・分岐型、諸外国との比較
3. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 近代学校制度の誕生
4. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 近代学校制度の確立
5. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 戦後の学校制度改革
6. 学校空間の過去と現在
7. 教育基本法について
8. 教育基本法の改正について
9. 公教育制度と基本原理について
10. 公教育を支える基本原則について(無償性・義務性・中立性)
11. 近年の教育改革 学校選択制
12. 近年の教育改革 新しい学校づくり
13. 学力問題について
14. 就学前教育をめぐる現状と制度について
15. 試験

評価

試験60%、授業への参加度20%、出席20%による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】高橋靖直編 『第二版 学校制度と社会』 玉川大学出版部

【推薦書】藤田晃之『新しいスタイルの学校 制度改革の現状と課題』 同時代社

【参考図書】教育制度研究会編 『要説 教育制度 新訂版』 学術図書出版社

科目名	保育者論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

集団保育の社会的役割拡大の風潮があるが、必ずしも幼稚園、保育所の使命及び保育者の専門性が正しく理解されているとはいえない現状である。1学年当初の専門科目であるので、今後の学習への意欲を高め、正しい方向での保育観の基礎作りを目指す。保育が乳幼児の全人教育であり、保育者自身の人間性と生活態度が保育の専門性に繋がることを理解するとともに、乳幼児の内面や集団活動展開状況を的確に把握することの重要性を理解し、「保育する自分」を自覚し、保育的にかかわりへの感性、行動力を高めることを目的とする。

内容

次の内容に関して、ほぼ1テーマを2コマの割合で扱う。また、テーマとは別に保育活動場面のビデオテープ視聴を行い、乳幼児の具体的行動や生活、保育の現実についての理解を深める。

1. 保育とは何か。保育者の資質について
2. 保育と社会的背景との関連。保育の歴史と保育者
3. 保育の現行制度と保育者の社会的役割と責任
4. 乳幼児にとっての保育者(乳幼児の発達と保育的にかかわり)
5. 幼稚園教育における保育実践
6. 保育所保育における保育実践
7. 成長し続ける保育者になるために(保育を学ぶとは)

評価

出席 20%、 授業中出題のレポート 30%、 期末テスト 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】関口・板垣編 『保育者をめざすあなたへ』 サンウエイ出版
子どもと保育総合研究所 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房
- 【推薦書】津守真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T
津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房

科目名	保育者論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

集団保育の社会的役割拡大の風潮があるが、必ずしも幼稚園、保育所の使命及び保育者の専門性が正しく理解されているとはいえない現状である。1学年当初の専門科目であるので、今後の学習への意欲を高め、正しい方向での保育観の基礎作りを目指す。保育が乳幼児の全人教育であり、保育者自身の人間性と生活態度が保育の専門性に繋がることを理解するとともに、乳幼児の内面や集団活動展開状況を的確に把握することの重要性を理解し、「保育する自分」を自覚し、保育的なかかわりへの感性、行動力を高めることを目的とする。

内容

次の内容に関して、ほぼ1テーマを2コマの割合で扱う。また、テーマとは別に保育活動場面のビデオテープ視聴を行い、乳幼児の具体的行動や生活、保育の現実についての理解を深める。

1. 保育とは何か。保育者の資質について
2. 保育と社会的背景との関連。保育の歴史と保育者
3. 保育の現行制度と保育者の社会的役割と責任
4. 乳幼児にとっての保育者(乳幼児の発達と保育的かかわり)
5. 幼稚園教育における保育実践
6. 保育所保育における保育実践
7. 成長し続ける保育者になるために(保育を学ぶとは)

評価

出席 20%、 授業中出題のレポート 30%、 期末テスト 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】関口・板垣編 『保育者をめざすあなたへ』 サンウエイ出版
子どもと保育総合研究所 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房
- 【推薦書】津守真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T
津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房

科目名	教育者論		
担当教員名	狩野 浩二、草野 一紀、横須賀 薫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」として開設されます。

講義内容としては「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容(研修、含む、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含む講座です。

小学校教員を目指す1年生(児童教育専攻)前期のみなさんと共に、教職科目のもっとも最初の学修内容として、「教師の仕事とは何か」ということを、さまざまな角度から学修することになります。

この科目を勉強したあと、教育の原理原則に関する科目(教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目(教育制度論)、教育の心理に関する科目(教育心理学)を学ぶことになります。

内容

以下、取り上げる項目を挙げておきます(順不同)。

1. 教師の仕事とは
2. 教員免許制度
3. 教員の養成制度
4. 教員の採用
5. 女教師論
6. 学校とは
7. 学校と家庭
8. 学校と地域
9. 学級と学級経営
10. 授業の役割
11. 生徒指導の役割
12. 学校をめぐる法律・規則
13. 教師の職場としての学校
14. 教師の研修
15. まとめ

評価

講義の際に書いてもらう出席票(20点)と、最終試験(80点)を総合して、単位を認定します。

大学の規程により三分の二回以上の出席により、最終試験を受けることができます。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しません。プリントなどを随時配布します。

【推薦書】斎藤喜博編 『島小の女教師』 明治図書出版

斎藤喜博 『授業 子どもを変革すること（新装判）』 国土社

斎藤喜博 『君の可能性』 ちくま文庫

【参考図書】教室で随時紹介します。

科目名	教育課程総論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育における子どもの生活、発達への理解をふまえつつ、指導計画の意味を理解し、保育実践に向けた計画作成を考える。さらに、具体的な事例等を通して保育改善のための計画 - 実践 - 評価・反省のプロセスを学び理解する。

内容

以下のような授業内容を予定している。講義が中心だが、個人・グループでの課題活動を取り入れたいと考えている。

1. 保育の基本と計画
2. 遊びと学び
3. 保育における計画の変遷
4. 幼稚園における教育課程
5. 保育所における保育課程
6. 教育課程・保育課程の編成と実際
7. 教育課程・保育課程の実施と指導計画作成
8. 長期指導計画・短期指導計画
9. 保育における記録の意義
10. 演習：記録の実践
11. 演習：指導計画作成
12. 演習：グループ活動 1
13. 演習：グループ活動 2
14. 保育における評価
15. 総括：教育課程・保育課程における諸課題

評価

出席点(30点)、授業中の課題・グループ活動(20点)、期末レポート(50点)から評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

神長美津子・塩谷香(編著)「教育課程・保育課程論」 光生館

科目名	教育課程総論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育における子どもの生活、発達への理解をふまえつつ、指導計画の意味を理解し、保育実践に向けた計画作成を考える。さらに、具体的な事例等を通して保育改善のための計画 - 実践 - 評価・反省のプロセスを学び理解する。

内容

以下のような授業内容を予定している。講義が中心だが、個人・グループでの課題活動を取り入れたいと考えている。

1. 保育の基本と計画
2. 遊びと学び
3. 保育における計画の変遷
4. 幼稚園における教育課程
5. 保育所における保育課程
6. 教育課程・保育課程の編成と実際
7. 教育課程・保育課程の実施と指導計画作成
8. 長期指導計画・短期指導計画
9. 保育における記録の意義
10. 演習：記録の実践
11. 演習：指導計画作成
12. 演習：グループ活動 1
13. 演習：グループ活動 2
14. 保育における評価
15. 総括：教育課程・保育課程における諸課題

評価

出席点(30点)、授業中の課題・グループ活動(20点)、期末レポート(50点)から評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

神長美津子・塩谷香(編著)「教育課程・保育課程論」 光生館

科目名	教育課程総論		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科(国語・算数など)、領域(道徳・特別活動など)等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになります。1年生で学習する「教育学概論」「教育者論」「教育方法」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「概説」や「教材研究」、さらには「教育実習」を学んでいくことになります。

内容

以下、取り上げる内容について列記します(順不同)。

1. 教育課程とは何か
2. 教育課程を構成する内容
3. 「各教科」の構成
4. 「特別活動」の構成
5. 「総合的な学習の時間」の構成
6. 教育課程の歴史 教科目の発生
7. 教育課程の歴史 教科外活動領域の発生
8. 教育課程の歴史 生活単元学習と系統学習
9. 教育課程と授業 内容系の授業づくり
10. 教育課程と授業 表現系の授業づくり
11. 教育課程と授業 表現活動の創造
12. 教育課程と授業 授業の実際に学ぶ
13. 教育課程と授業 授業の中の子ども
14. 教育課程と授業 表現活動の可能性
15. 最終試験

評価

毎回書いてもらう小レポート(20点)と試験(80点)などを組み合わせて、総合評価します。

大学の規程で、三分の二以上の出席により、最終試験を受けることができます。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】講義中に適宜紹介します。

【推薦書】斎藤喜博 『授業の展開(新装判)』 国土社

横須賀薫 『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編 『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編 『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	伊藤 美紀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育・教育の現場で相談活動に臨む際に必要な、子どもの発達臨床の基礎知識と、援助のための基本的な技法を学ぶことがこの教科のねらいである。

子どもの臨床的課題に対し適切な心理的援助を行っていくためには、基本的な発達の理解が必要不可欠なことはいうまでもないが、同時に、保護者と良好な関係を作り協働していくこと、問題を一人で抱え込むのではなく仲間と協力していくこと、また必要に応じて他機関との連携をとっていくことなども重要である。

保育・教育相談に携わる際の基礎知識の習得と、保育・教育現場での多様なニーズに応えていくための下地づくりを目標とする。

内容

1. 発達の臨床からみた教育相談
2. 教育相談に生かす発達の理論
3. 子どもの発達の特徴
4. 教育相談にみる子育て環境
5. 相談におけるニーズの理解と子どもの行動評価
6. 教育相談に生かすカウンセリングの技法
7. 教師間のピアサポート(仲間支援)
8. 乳・幼児期に起こりやすい問題と対応
9. 子どもの心の問題と対応
10. 子どもの発達の問題と対応

テキストによる学習と、相談活動の基本的な技法について体験的に学んでいただくためのグループワークを適宜取り入れていきます。

評価

出席(授業中の課題・小レポートの提出)60点

学期末のペーパーテストもしくはレポート40点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】平山諭・早坂方志編著 『発達の臨床からみた心の教育相談』 発達心理学の基礎と臨床

ミネルヴァ書房

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- (1) 学校教育相談・学校カウンセリングについての基本的な知識を学ぶ。
- (2) 学校教育相談担当者として必要な臨床的知識と資質について学ぶ。

内容

1	(1) 生徒指導における教育相談の位置づけ
2	(2) 生徒指導の内容と教育相談
3	(3) 生徒理解と生徒指導の方法
4	(4) 問題行動の意味と枠組み
5	(5) 学校における教育相談の意義と特色
6	(6) 学校教育相談の担当者
7	(7) 学校教育相談の基本的考え方
8	(8) 教育相談・カウンセリングの理論
9	(9) 教育相談・カウンセリングの進め方
10	(10) 学校教育相談におけるドラマ的手法の活用
11	(11) カウンセリングの基本技法
12	(12) カウンセリングの模擬体験(1)
13	(13) カウンセリングの模擬体験(2)
14	(14) カウンセリング実習(1)
15	(15) カウンセリング実習(2)・評価とまとめ

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】長谷川栄、杉原一昭編 『生徒指導と教育相談』教職教育講座第5巻 協同出版

【推薦書】渡辺弥生 『学校だからできる生徒指導・教育相談』 北樹出版 375.2/G

中野武春 『学校教育相談がわかる本』 ぎょうせい 375.2/N

北島貞一 『学級で活かす教育相談』 ぎょうせい 375.2/G

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。保育所における乳児保育が一般化され、保育士の国家資格化に伴い、保護者への育児指導業務も付加された。これからの保育士は、より専門的な視点で子どもにかかわることが求められている。

現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目的とする。

(乳児保育の対象は、厳密には1歳未満であるが、発達の流れを考慮して3歳未満児を中心とする)

内容

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜絵本の紹介・読み聞かせを行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント30点、テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	障害児保育		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業においては、保育の中で特別な支援を必要とする乳幼児の「障害の理解」を深め、統合保育および専門的な療育場面での保育における援助のあり方を具体的に学ぶこととする。また、一人ひとりの発達課題をとらえ、継続的な保育、教育が進められるよう医療機関・福祉機関・学校教育機関や家庭・地域が連携し育ちを支える「特別支援教育」のシステムも理解しながら、発達保障をする具体的な保育方法を学ぶ。

内容

1. 生命の尊さ - さまざまな育ちと生活 - (1 回)
2. 「障害」とは何か(1 回)
3. 関係性の中で育つこと(2 回)
 - ・ 「障害」観の歴史的変遷を辿る
 - ・ 障害児の保育・教育実践の歴史
4. 障害の理解の促進と個々の育ちと生活に応じた具体的な援助を考える
 - ・ 情報入力に難しさのある子どもの理解と支援(3 回)
 - ・ 身体の調整に難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 人とのかかわりや行動の統制が苦手な子どもの理解と支援(2 回)
5. 保育の中での「気になる子」と称される子どもの理解と支援(1 回)
6. 専門機関と家庭の連携 - 特別支援教育における実践と課題 - (1 回)
7. 生涯発達を見通した保育の場での援助とは(1 回)

評価

期末のレポート(70%)、授業内のレポート(30%)により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】野本茂夫監修 『障害児保育入門 どの子にもうれしい保育をめざして』 ミネルヴァ書房 378/S
若井淳二他編著 『幼稚園・保育所の先生のための 障害児保育テキスト』 教育出版 378/W

科目名	臨床発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵、佐藤 礼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳幼児期・児童期の子どもを臨床発達心理学的観点から考える。

理論的背景としてPiaget、Eriksonの主張や、発達心理学の領域で注目されている「心の理論」などについて学ぶ。さらに、さまざまな発達障がいについて理解を深め、障がいをもっている子どもたちの保育・教育や子育てについて考える。

内容

- (1) 臨床発達心理学総論(長田)
- (2) Piagetの発達段階論(長田)
- (3) Piagetの発達段階論(長田)
- (4) Eriksonの発達理論(長田)
- (5) Eriksonの発達理論(長田)
- (6) 「心の理論」(長田)
- (7) 「心の理論」(長田)
- (8) 発達障がい総論(佐藤)
- (9) 発達障がい各論 : 広汎性発達障害(佐藤)
- (10) 発達障がい各論 : ADHD(佐藤)
- (11) 発達障がい各論 : LD(佐藤)
- (12) 発達障がい各論 : 発達障がいを持つ子どもを持つということ(佐藤)
- (13) もう一つの「発達障がい」 : 虐待1(佐藤)
- (14) もう一つの「発達障がい」 : 虐待2(佐藤)
- (15) 試験

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】 白石正久著 『発達の扉 上』 かもがわ出版
白石正久著 『発達の扉 下』 かもがわ出版
- 【推薦書】 市川宏伸著 『子どもの心の病気がわかる本』 講談社
小西 行郎 『子どもの心の発達がわかる本』 講談社

科目名	多文化教育		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の文化のなかで人が育つ過程と他の文化(欧米、アフリカ、インド)のなかで育つ人々の比較を通して、人がどのように文化のなかで作られていくかを考える。また今日の多文化共生社会のなかで、文化的背景の異なる子どもたちが共に育つために学校現場で何をすべきかについて考える。多文化・多民族の国の学校でどのように異文化からの子どもたちが共に理解し合うことを学んでいるか、を見る。また日本のなかの実践例を紹介する。

内容

資料、映像、図を用いて、できるだけわかりやすい授業をしたい。

1. 社会・文化のなかの社会化過程
2. 世界のさまざまな子育て
3. アフリカ、インドの伝統的育児
4. 西洋の育児の伝統
5. 日本の育児と子育て観
- 6~7. 社会化過程の日米比較
9. 保育と教育の場での社会化の日仏比較
- 10~11. 国際比較からみる多文化教育
- 12~13. 世界の多文化共生社会における子どもと教育
14. 日本における多文化共生保育・教育
15. まとめ

評価

期末レポート(60点)、授業時のレポート(20点)および授業時の積極的な討論参加(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】恒吉僚子 「人間形成の日米比較」中公新書 1992
東洋 「日本人のしつけと教育」東京大学出版会1994
- 【参考図書】土居健郎 「甘えの構造」 弘文堂

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1. 児童学の研究法の種類とその必要性
2. 児童学の研究法の種類とその必要性
3. 質問紙法 : 標準化された質問紙
4. 質問紙法 : 質問紙の作成方法
5. 質問紙法 : 統計基礎
6. 検査法
7. 検査法
8. 観察法
9. 観察法
10. 面接法
11. 事例研究法
12. 実践研究
13. 記録法
14. まとめ
15. 試験

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版<基礎知識と技術習得のために>』 日本文化科学社

【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦(編) 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究方法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

それぞれの研究方法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

内容

まず、児童学の研究方法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究方法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究方法についての理解を深める。

1. 児童学の研究方法の種類とその必要性
2. 児童学の研究方法の種類とその必要性
3. 質問紙法 : 標準化された質問紙
4. 質問紙法 : 質問紙の作成方法
5. 質問紙法 : 統計基礎
6. 検査法
7. 検査法
8. 観察法
9. 観察法
10. 面接法
11. 事例研究法
12. 実践研究
13. 記録法
14. まとめ
15. 試験

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版<基礎知識と技術習得のために>』 日本文化科学社

【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦(編) 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	国語概説		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この講座は、義務教育課程の学生に必要な国語知識を身につけることを目的としている。即ち日本語の持つ言語体系、言語文化への理解を深め、教育に資することである。即ち、国語史、国文学、国語教育に関する基礎的な素養を身につけるための講座で、将来国語という、最も基礎的な領域を横断的に理解し、日本人として愧じる事の無いようねがっている。

内容

先ず、わが国の言語、即ち母国語としての日本語がどの様に成立し、「こくご」という概念に至ったかを明らかにする。その後どの様な変遷を辿って今日に至ったかも考察する。また、現在から未来に向けてどのように国語が方向付けられるべきかも考えなくてはならない。そのための基礎・基本となる知識や、教育とどの様にかかわるか考察する。いずれ国際的な言語の一つとなるかもしれない可能性をどの様に位置づけるかが大切なことである。尚、受講生はただ講義内容を受身に聴くだけでなく、みずから進んで関連事項を調べ、整理する事を期待している。

評価

出席点50、レポート点50、とする。レポート課題はその都度指示する。ノート整理をきちんとしておく事。また止むを得ない場合を除き欠席の多い聴講生の評価は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特にないが、簡潔にまとめたものに『図解日本語』(三省堂)がある。講義は多岐にわたるので、その都度必要に応じて、紹介する。

科目名	社会概説		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校の社会科は、第3学年から教科として取り扱われている。3・4学年では「身近な地域(市・町・村・都道府県)のくらし」などについて取り扱い、5学年では「わが国の産業、国土のようす」などについて取り扱い、第6学年では、「わが国の歴史、政治、世界の中の日本の役割」などについて取り扱うこととしている。

社会科は、このような学習内容を学習することを通して、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことにある。最近では、国際社会の動きと社会の進展に深く係わりながら、国際社会に生きる日本人の育成という大きな期待がかけられている。

このような社会科教育の理念や学習内容の変遷について考察を加え、社会科教育について基礎的理解を深める。

内容

1	ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
2	低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
3	中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
4	高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
5	社会科学習における地理的内容(1)
6	社会科学習における地理的内容(2)
7	社会科学習における図表の活用(1) 地図の見方・活用の仕方
8	社会科学習における図表の活用(2) 地形図の活用の仕方
9	社会科学習における歴史的内容(1)
10	社会科学習における歴史的内容(2)
11	社会科学習における図表の活用(3) 年表の見方・活用の仕方
12	日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
13	社会科における指導の在り方・評価のあり方(1)
14	社会科における指導の在り方・評価のあり方(2)
15	定期試験

評価

課題レポートなどの提出物60点 定期期末試験30点 出席・授業への取り組み10点により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説(社会編) 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説(総則編) 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

科目名	算数概説		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

算数科の学習は低学年から高学年の学年進行にしたがって、内容は段階的に高度なものとなっている。しかし、子どもたちは小学校に入学する前の幼児期から遊びや生活を通して、学習ではないが数や形に体験的に触れ、自然に経験を積み重ねている。この時期における教師や保育者の投げかけは重要である。

本講座では、幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに中学校以上の数学の基礎との関連も考察し、その中での算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピンゴ・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	試験

評価

出席状況と毎回の小テストや提出物(70%)、試験(30%)で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

小学校学習指導要領解説 算数編 文科省 著 東洋館出版社 版

【推薦書】

学力向上70テーマの実践8『算数科コース別指導による確かな学び
理論編』明治図書

同上9 『1 - 3年実践編』、同上10 『4 - 6年実践編』 明治図書

科目名	生活概説		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを身につける。また、仲間と協働してさまざまな体験を通し、これからの生活科のあり方を模索して、教員としての指導力や資質の向上を高めることをねらう。

内容

- 生活概説についてのガイダンス
- 幼児や低学年児童にとっての遊びや学校生活の意義
 - 保育の中の子どもや保育者の役割
 - 幼小連携とは何か
- 小学校入門機の指導
 - 学校生活と入門機の学習
 - 生活科についての概要(小学校学習指導要領、幼稚園指導要綱のねらいと内容)
- 生活科とはどのような教科か
 - 自然にかかわるねらいと内容
 - 大学キャンパス内の自然見つけと落ち葉の造形製作
 - 製作にかかわるねらいと内容
 - 廃品等を利用して製作する
 - 地域社会にかかわるねらいと内容
 - 自分の町をマップで表現する
- 実際の指導はどのようにするか
 - 年間カリキュラム編成
 - 学習指導案の事例から指導案の意義を学ぶ

評価

授業への出席状況30点、毎回課題レポート60点、作品他10点を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし その都度作成資料配付

【参考図書】 学習指導要領・生活科の指導書 「新しい生活」小学校生活科教科書 東京書籍
生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	家庭概説		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

家庭生活を中心に小学校5,6年児童を対象にした教科である家庭科の概要を扱う。家庭科教育の変遷を踏まえて生活における今日的課題も取り扱う。児童の実態や実践を盛り込んでこれからの家庭科のあり方を考えると共に家庭科教育の中でも特に小学校の指導に視点を置き、小学校学習指導要領の中にどのように位置づけられているかを把握する。個人の生活に関する課題追求の他、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。指導法にも多様な方法があることを知る。

内容

1、家庭科教育で何を学ぶのか

- ・本授業計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス
- ・自分自身の家庭生活を振り返り課題を持ち、生活レポートにして提出する。

2、家庭科教育について

- ・家庭科の変遷
- ・小学校家庭科の位置づけと主な目標や内容(小学校指導要領)

3、小学校家庭科の主な学習内容

領域別に扱うよりは総合的な扱いの方向だが領域の主な内容に触れ簡単な実践や体験を盛り込む。

- ・衣生活(衣服の役割や縫製指導)・食生活(調理実習と食品、栄養等)・住生活(住まいの環境)
- ・家族生活(上記の3領域と関連づけて扱うほかロールプレイを入れて考えさせる)

4、生活の中の今日的課題

- ・指導事例から消費者問題を考える。
- ・視聴覚教材から水やゴミの環境問題を考え、意思決定につなげる。

5、家庭科の環境設定と管理

- ・特別室の施設設備や道具用具の管理

評価

出席状況30点、生活レポート10点、毎回課題レポート60点で総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校指導要領

【推薦書】こどもとおとなが一緒に読む絵本「人と食べものの話」5巻 農山漁村文科協会

【参考図書】授業内で紹介提示する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは自然との関わりから、様々なことを学び、成長していく。多くの子どもの育ちの中で、自然と関わる機会が制限されがちな今ほど、その大切さが強調されている時代はない。この科目では、「自然」に含まれる多くの事象と子どもとの関わりについて、具体的なねらいと援助の方法を、講義と実体験を通して理解し、保育実践に生かせるようになることを目指す。特に、動物や植物との関わりについては、“生命とどう向き合うか”という視点から、重点的に扱う。

内容

主な内容は以下の通り。なお、キャンパス内の季節の自然を活用する都合上、順序などは若干前後する可能性がある。

1. 子どもにとっての自然
2. 身近な自然体験
 - 小動物との関わり / 植物との関わり / 季節の自然への気づきと活用
3. 子どもと動物
 - ねらい / 動物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
4. 子どもと植物
 - ねらい / 植物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
5. 子どもと自然事象
 - ねらい / 自然事象とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
6. まとめ

評価

期末試験またはレポート50点、平常の提出物20点、出席および授業への参加状況30点で評価し、学内の評価基準に従って成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】山内昭道・幼児の自然教育研究会 『子どもと自然』 文化書房博文社

佐藤信次 『庭にきた虫 いのちのドラマを親子でみる』 農山漁村文化協会 486/S

今森光彦 『昆虫記』 福音館書店 486/I

【参考図書】埴沙萌 『植物記』 福音館書店 471・H

河合雅雄 『少年動物誌』 福音館書店 913.6/K

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは自然との関わりから、様々なことを学び、成長していく。多くの子どもの育ちの中で、自然と関わる機会が制限されがちな今ほど、その大切さが強調されている時代はない。この科目では、「自然」に含まれる多くの事象と子どもとの関わりについて、具体的なねらいと援助の方法を、講義と実体験を通して理解し、保育実践に生かせるようになることを目指す。特に、動物や植物との関わりについては、“生命とどう向き合うか”という視点から、重点的に扱う。

内容

主な内容は以下の通り。なお、キャンパス内の季節の自然を活用する都合上、順序などは若干前後する可能性がある。

1. 子どもにとっての自然
2. 身近な自然体験
 - 小動物との関わり / 植物との関わり / 季節の自然への気づきと活用
3. 子どもと動物
 - ねらい / 動物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
4. 子どもと植物
 - ねらい / 植物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
5. 子どもと自然事象
 - ねらい / 自然事象とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
6. まとめ

評価

期末試験またはレポート50点、平常の提出物20点、出席および授業への参加状況30点で評価し、学内の評価基準に従って成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】山内昭道・幼児の自然教育研究会 『子どもと自然』 文化書房博文社

佐藤信次 『庭にきた虫 いのちのドラマを親子でみる』 農山漁村文化協会 486/S

今森光彦 『昆虫記』 福音館書店 486/I

【参考図書】埴沙萌 『植物記』 福音館書店 471・H

河合雅雄 『少年動物誌』 福音館書店 913.6/K

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは自然との関わりから、様々なことを学び、成長していく。多くの子どもの育ちの中で、自然と関わる機会が制限されがちな今ほど、その大切さが強調されている時代はない。この科目では、「自然」に含まれる多くの事象と子どもとの関わりについて、具体的なねらいと援助の方法を、講義と実体験を通して理解し、保育実践に生かせるようになることを目指す。特に、動物や植物との関わりについては、“生命とどう向き合うか”という視点から、重点的に扱う。

内容

主な内容は以下の通り。なお、キャンパス内の季節の自然を活用する都合上、順序などは若干前後する可能性がある。

1. 子どもにとっての自然
2. 身近な自然体験
 - 小動物との関わり / 植物との関わり / 季節の自然への気づきと活用
3. 子どもと動物
 - ねらい / 動物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
4. 子どもと植物
 - ねらい / 植物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
5. 子どもと自然事象
 - ねらい / 自然事象とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
6. まとめ

評価

期末試験またはレポート50点、平常の提出物20点、出席および授業への参加状況30点で評価し、学内の評価基準に従って成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】山内昭道・幼児の自然教育研究会 『子どもと自然』 文化書房博文社

佐藤信次 『庭にきた虫 いのちのドラマを親子でみる』 農山漁村文化協会 486/S

今森光彦 『昆虫記』 福音館書店 486/I

【参考図書】埴沙萌 『植物記』 福音館書店 471・H

河合雅雄 『少年動物誌』 福音館書店 913.6/K

科目名	書写・書道文化		
担当教員名	茂木 亜紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代の文字環境は、パソコン等の普及で、筆写された文字よりも印刷された活字の文字に接することが大変多く、手書きの文字に接する機会が少なくなっている。そのため、活字を基準にして文字の正誤を見分ける傾向が生じている。これは、点画の長短や方向などが不自然になりやすく、手書き文字の字形の乱れの原因の一つと考えられる。

情報化、国際化が進む中で、漢字や仮名に対する正しい知識を持ち、文字を正しく整えて書くことができるように、書写力の向上と日常化を図ることが必要である。

この授業では、小学校国語科「書写」授業担当者としての基礎的・基本的な技能・資質を身につけることを目標とする。

内容

学習指導要領に示す国語科書写の学習のねらいやその指導法等を講義する。また、受講する学生が身につけなければならない実技(毛筆・硬筆)を通して、その技法を学習していく。以下、大まかな授業内容を示す。

1. 「書写」の意義・ねらい・内容
2. 姿勢・執筆法
3. 用具・用材とその扱い方
4. 基本点画の学習・筆使い
5. 筆順について
6. 漢字の字形
7. 平仮名・片仮名の字形
8. 文字の大きさ・配列・字配り
9. 実用書式(ポスター・案内状・手紙の書き方)
10. 学習指導要領と指導計画について
11. まとめ

評価

- ・出席状況(15点)、実技・課題等の提出物(30点)、実技テスト(55点)による評価を行い、60点以上を合格とする。
- ・毎回、実技を中心とした授業なので、習字道具(大筆・小筆・墨・硯・半紙・文鎮・下敷き)を必ず持参すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 『新編 書写指導 小学校編』 萱原書房

[推薦書] 『実践 小学書写』 教育出版

『小学漢字1006字の書き方辞典』 小学館

『第三版 現代書写字典』 木耳社

科目名	書写・書道文化		
担当教員名	茂木 亜紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代の文字環境は、パソコン等の普及で、筆写された文字よりも印刷された活字の文字に接することが大変多く、手書きの文字に接する機会が少なくなっている。そのため、活字を基準にして文字の正誤を見分ける傾向が生じている。これは、点画の長短や方向などが不自然になりやすく、手書き文字の字形の乱れの原因の一つと考えられる。

情報化、国際化が進む中で、漢字や仮名に対する正しい知識を持ち、文字を正しく整えて書くことができるように、書写力の向上と日常化を図ることが必要である。

この授業では、小学校国語科「書写」の授業担当者としての基礎的・基本的な技能・資質を身につけることを目標とする。

内容

学習指導要領に示す国語科書写の学習のねらいやその指導法等を講義する。また、受講する学生が身につけなければならない実技(毛筆・硬筆)を通して、その技法を学習していく。以下、大まかな授業内容を示す。

1. 「書写」の意義・ねらい・内容
2. 姿勢・執筆法
3. 用具・用材とその扱い方
4. 基本点画の学習・筆使い
5. 筆順について
6. 漢字の字形
7. 平仮名・片仮名の字形
8. 文字の大きさ・配列・字配り
9. 実用書式(ポスター・案内状・手紙の書き方)
10. 学習指導要領と指導計画について
11. まとめ

評価

- ・出席状況(15点)、実技・課題等の提出物(30点)、実技テスト(55点)による評価を行い、60点以上を合格とする。
- ・毎回、実技を中心とした授業なので、習字道具(大筆・小筆・墨・硯・半紙・文鎮・下敷き)を必ず持参すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『新編 書写指導 小学校編』 萱原書房

【推薦書】『実践 小学書写』 教育出版

『小学漢字1006字の書き方辞典』 小学館

『第三版 現代書写字典』 木耳社

【参考図書】適宜紹介する

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者ができるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分：試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者がなるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分: 試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者がなるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分: 試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者がなるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分：試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	田代 幸代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶことが目的です。幼稚園教諭1種免許状および保育士資格取得のための必修科目となります。

はじめに、幼児期の身体面、運動面、精神面の発達と特徴をおさえ、遊びを通して心身ともに健康な子どもを育てる援助や環境について考えます。また、心身ともに健康な生活は、子どもの育ちを支える基盤です。そのための生活リズムや基本的な生活習慣、安全の問題なども考えていきます。具体的な事例を通して、幼稚園教育要領における領域「健康」の位置づけや、ねらいと内容について理解します。

講義中心ですが、子どもの写真、ビデオ、行事の取り組みなど、できるだけ実際の子どもの生活する姿と重ね合わせながら、実践の場で生きる学びとなるようにします。

内容

1	授業のガイダンス：「健康」とはなにか、子どもの健康、自分自身の健康など
2	身体の発達：胎児・新生児・乳児・幼児の発達、心の発達と身体の発達など
3	動きの発達：発達の特徴、移動運動・基本運動など
4	子どもの運動能力：運動能力テストの測定方法と現状、運動能力と園生活の関連など
5	領域「健康」の考え方：幼児教育の基本、ねらいと内容、内容の取扱いなど
6	保育の実際：遊び場面のビデオ視聴からグループ討議など
7	保育の実際：グループ討議から論点整理とまとめなど
8	保育の実際：日常保育における遊びと行事「運動会」の意味を考えるなど
9	子どもの健康と遊び：ルールのある遊び、遊具を使った遊びなど
10	子どもの健康と環境構成：遊具等の配置、戸外の活用、保育の工夫など
11	子どもの安全管理：事故と対応、子どもの事故を防ぐ、安全指導と避難訓練など
12	子どもの健康管理：けがや病気とその予防、学校伝染病、健康診断など
13	生活習慣の形成：基本的な生活習慣とは何か、食事・排泄・睡眠・着脱衣・清潔の実際など
14	授業のまとめ：授業内容のポイントとまとめ、領域「健康」における現代的課題など
15	期末試験

評価

評価は、授業への取り組み状況（出席およびミニペーパーの記述）と試験により総合的に行います。

出席（15点）ミニペーパー（15点）試験（70点）の合計で、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】倉持清美・河邊貴子・田代幸代（編）『事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』萌文書林

【推薦書】杉原隆・柴崎正行・河邊貴子（編）『保育内容「健康」』ミネルヴァ書房

乙武洋匡『五体不満足』青い鳥文庫

【参考図書】授業内で紹介します。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	田代 幸代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

幼稚園教育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶことが目的です。幼稚園教諭1種免許状および保育士資格取得のための必修科目となります。

はじめに、幼児期の身体面、運動面、精神面の発達と特徴をおさえ、遊びを通して心身ともに健康な子どもを育てる援助や環境について考えます。また、心身ともに健康な生活は、子どもの育ちを支える基盤です。そのための生活リズムや基本的な生活習慣、安全の問題なども考えていきます。具体的な事例を通して、幼稚園教育要領における領域「健康」の位置づけや、ねらいと内容について理解します。

講義中心ですが、子どもの写真、ビデオ、行事の取り組みなど、できるだけ実際の子どもの生活する姿と重ね合わせながら、実践の場で生きる学びとなるようにします。

内容

1	授業のガイダンス：「健康」とはなにか、子どもの健康、自分自身の健康など
2	身体の発達：胎児・新生児・乳児・幼児の発達、心の発達と身体の発達など
3	動きの発達：発達の特徴、移動運動・基本運動など
4	子どもの運動能力：運動能力テストの測定方法と現状、運動能力と園生活の関連など
5	領域「健康」の考え方：幼児教育の基本、ねらいと内容、内容の取扱いなど
6	保育の実際：遊び場面のビデオ視聴からグループ討議など
7	保育の実際：グループ討議から論点整理とまとめなど
8	保育の実際：日常保育における遊びと行事「運動会」の意味を考えるなど
9	子どもの健康と遊び：ルールのある遊び、遊具を使った遊びなど
10	子どもの健康と環境構成：遊具等の配置、戸外の活用、保育の工夫など
11	子どもの安全管理：事故と対応、子どもの事故を防ぐ、安全指導と避難訓練など
12	子どもの健康管理：けがや病気とその予防、学校伝染病、健康診断など
13	生活習慣の形成：基本的な生活習慣とは何か、食事・排泄・睡眠・着脱衣・清潔の実際など
14	授業のまとめ：授業内容のポイントとまとめ、領域「健康」における現代的課題など
15	期末試験

評価

評価は、授業への取り組み状況（出席およびミニペーパーの記述）と試験により総合的に行います。

出席（15点）ミニペーパー（15点）試験（70点）の合計で、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】倉持清美・河邊貴子・田代幸代（編）『事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』萌文書林

【推薦書】杉原隆・柴崎正行・河邊貴子（編）『保育内容「健康」』ミネルヴァ書房

乙武洋匡『五体不満足』青い鳥文庫

【参考図書】授業内で紹介します。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	高櫻 綾子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもの発達に関する基本的知識をもとに、保育内容における「環境」とはなにかについて、人的・物的・自然・社会的といった多様な側面から学ぶことを通して、乳幼児期における「環境」の重要性に気づき、理解することを目的とする。また、保育者の役割や保育の中での関わりについても、保育実践例やビデオ教材などの資料を用いることで、受講者が具体的に捉え、主体的に考えることができるようにしたい。

内容

以下の内容で授業をおこなう予定である。

1. 保育と環境

(1) 子どもにとっての環境 (2) 保育内容「環境」 (3) 遊びと環境

2. 人的環境

(4) 保育者の役割 (5) 環境の担い手としての子ども

3. 自然環境

(6) 園の行事 (7) 植物・動物 (8) 文字・数字

4. 物的環境

(9) 保育計画 (10) 保育者による環境構成 (11) 保育者による環境構成 (12) 記録と省察

5. 社会的環境

(13) 子どもを取り巻く現代日本の社会状況 (14) 安全性 (15) 地域社会との連携

評価

授業への出席、授業時の課題提出、期末レポートおよびその内容に関する発表をふまえて評価する。

(評価の配分：出席15%、授業時の課題提出30%、期末レポートおよびその発表55%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・福元真由美（編）『環境』 萌文書林

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	高櫻 綾子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもの発達に関する基本的知識をもとに、保育内容における「環境」とはなにかについて、人的・物的・自然・社会的といった多様な側面から学ぶことを通して、乳幼児期における「環境」の重要性に気づき、理解することを目的とする。また、保育者の役割や保育の中での関わりについても、保育実践例やビデオ教材などの資料を用いることで、受講者が具体的に捉え、主体的に考えることができるようにしたい。

内容

以下の内容で授業をおこなう予定である。

1. 保育と環境

(1) 子どもにとっての環境 (2) 保育内容「環境」 (3) 遊びと環境

2. 人的環境

(4) 保育者の役割 (5) 環境の担い手としての子ども

3. 自然環境

(6) 園の行事 (7) 植物・動物 (8) 文字・数字

4. 物的環境

(9) 保育計画 (10) 保育者による環境構成 (11) 保育者による環境構成 (12) 記録と省察

5. 社会的環境

(13) 子どもを取り巻く現代日本の社会状況 (14) 安全性 (15) 地域社会との連携

評価

授業への出席、授業時の課題提出、期末レポートおよびその内容に関する発表をふまえて評価する。

(評価の配分：出席15%、授業時の課題提出30%、期末レポートおよびその発表55%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・福元真由美（編）『環境』 萌文書林

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。
この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじと質的な変化・発展への理解を深める。そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会において、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は幼稚園や保育所の乳幼児集団において、どのような環境への配慮や具体的な援助が必要なのかについて探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考察を深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への振り返りや現在の学生としての自分の対人関係の分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か 人間関係をとらえる視点 人間関係の発達 こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係） 保育と人間関係 個と集団

また、ビデオを使用し、保育の中での指導のあり方を確認することも試みる。

評価

レポート（60%）、集団活動への参加学習状況（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】畠中徳子、赤井美智子他 『人間関係 - かかわり合い、育ち合い - 』 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。
この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじと質的な変化・発展への理解を深める。そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会において、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は幼稚園や保育所の乳幼児集団において、どのような環境への配慮や具体的な援助が必要なのかについて探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考察を深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への振り返りや現在の学生としての自分の対人関係の分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か 人間関係をとらえる視点 人間関係の発達 こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係） 保育と人間関係 個と集団

また、ビデオを使用し、保育の中での指導のあり方を確認することも試みる。

評価

レポート（60%）、集団活動への参加学習状況（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】畠中徳子、赤井美智子他 『人間関係 - かかわり合い、育ち合い - 』 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじ, と質的な変化・発展への理解を深める。

そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か

人間関係をとらえる視点

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

個と集団

評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじ、と質的な変化・発展への理解を深める。

そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か

人間関係をとらえる視点

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

個と集団

評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学年	3	クラス	1Aクラス
開講期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授業形態		単位数	2
資格関係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや発表会・運動会などでき簡単なリズムダンスなどを習得することで音楽をいかに楽しく表現するかを勉強していきます。

同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法を学びながら、保育者自身のピアノの技術の向上をめざします。更にその音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していくのが、この講義のねらいです。

内容

この講義は、童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、ピアノを弾いたりする実技を伴うものである。音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新しい曲などから、毎週課題として3~4曲ずつ選曲し、それらの曲をもとに、毎回次のような内容で講座をすすめる。またそれぞれ子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

[1]リズム遊びや動きなどを中心として動く。

普段の保育でのリズムあそびやその創作
発表会や運動会を中心としたあそび・動き

[2]歌いながら弾ける伴奏を学ぶ。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析
各自の技術に合わせた演奏と編曲
歌いながらの指導法

評価

出席40%、毎週の課題に対する評価点60%で総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、テキスト・プリントCDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合（キングレコード）
- ・お誕生会あそび&運動会ダンス（キングレコード）など

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや発表会・運動会などでき簡単なリズムダンスなどを習得することで音楽をいかに楽しく表現するかを勉強していきます。

同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法を学びながら、保育者自身のピアノの技術の向上をめざします。更にその音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していくのが、この講義のねらいです。

内容

この講義は、童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、ピアノを弾いたりする実技を伴うものである。音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新しい曲などから、毎週課題として3~4曲ずつ選曲し、それらの曲をもとに、毎回次のような内容で講座をすすめる。またそれぞれ子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

[1]リズム遊びや動きなどを中心として動く。

普段の保育でのリズムあそびやその創作
発表会や運動会を中心としたあそび・動き

[2]歌いながら弾ける伴奏を学ぶ。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析
各自の技術に合わせた演奏と編曲
歌いながらの指導法

評価

出席40%、毎週の課題に対する評価点60%で総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、テキスト・プリントCDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合（キングレコード）
- ・お誕生会あそび&運動会ダンス（キングレコード）など

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久、照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久、照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	初等国語科指導法（書写を含む）		
担当教員名	萩原 昌好、白倉 正堯		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

初等国語科指導法とは、小学校一年から六年にわたる国語教育の指導法をいかに達成するか、という事を理論と実践によって学び、小学校教師としての素養を身につけるための方法論である。国語という科目は、すべての教科の基礎となるもので、あらゆる分野にわたる様々な文章を読み、書き、聞き、話すための技能と態度とが求められる。これをいかに授業に生かして行くのかを学ぶためには、絶えず多様な言語能力を磨き、いかに教材を活用させるかを、児童の実態を踏まえながら、教師として恥ずる事の無いよう多面的な指導法を身につけねばならない。これを理論と実践の両面から学ぶ事を狙いとする。同時に児童の意欲・関心をいかに高めるかという事も大切で、ただの教える機械になってしまうよう魅力的な授業の構築を図るべきである。さらに、評価の方法も創意と工夫が求められるであろう。要は人間学といってもよい。これらについて具体的に考察する。

尚、理論面及び総合的判断は萩原が、実践のための指導内容、指導方法 及び教師としてあるべき素養を含め、教育力全体の修得については、長く教育に携わっておられた白倉先生に担当していただく。

内容

- 一、国語教育と国語化教育について
- 二、『読むこと』『書くこと』『聞く・話すこと』及び『言語事項』について
- 三、「教材」というもの、その意義と効果
（以上萩原担当）
- 四、教育者としての素養（読書、論文、言語感覚、クラス経営、生涯学習等）について
- 五、知識情報の活用（収集と整理、指導研究研修の意義等）及び教材研究、指導のあり方等
（以上白倉担当）

評価

出席点50、レポート点50 を原則とする。但し、資料やノートなどの整理の仕方などのチェックもまた評価の対象となる。止むを得ない場合を除き、欠席の多い受講生は評価の対象とはしない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】一応の目安として当方から希望者には準備する。

科目名	初等社会科指導法		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校社会科教育の目標・内容・などについて理解を深めるとともに、各学年の指導目標や学習内容の系統性や年間指導計画、単元の構成、指導方法について、具体的な実際例などを活用しながら理解を進める。

さらに、いくつかの小単元を取り上げ、指導計画の作成及び1時間の指導案を作成し、模擬授業に取り組み、実際の社会科学習指導に向けての実践力を高める。

内容

1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年の社会科の目標・内容・年間指導計画・授業展開
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 わたしたちのまち 暮らしと人びとの仕事
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 安全な暮らしを守る 住みよいくらしを支える
5	小学校3学年4学年の社会科の内容 郷土の人びとの願い わたしたちの埼玉県
6	小学校5学年の社会科の目標・内容・年間指導計画・授業展開
7	小学校5学年の社会科の内容 わたしたちの生活と食料生産 わたしたちの生活と工業生産
8	小学校5学年の社会科の内容 わたしたちの生活と情報 わたしたちの国土と環境
9	小学校6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画・授業展開
10	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
11	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
12	小学校社会科の小単元の指導計画の立て方
13	小学校社会科の1時間の授業展開のあり方、資料の作り方・活用の仕方
14	小学校社会科学習における学習評価のあり方
15	社会科の模擬授業

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み20点 出席・授業への取り組み20点により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説(社会編)平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

科目名	初等算数科指導法		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「算数概説」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、少人数あるいはTTの加配の教員も含めた指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。特にこの「初等算数」では、小学校低学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置き、児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を元に、指導計画と学習指導案の作成と模擬授業を行う。なお、高学年の指導は次年度の「算数教材研究」で行う。

内容

1	ガイダンス・1学年の指導のポイント
2	算数科の指導内容と指導上の留意点・1学年「10より大きい数」の指導計画と指導案
3	年間計画と学習指導案の書き方・1学年「繰り下がりのある引き算」の指導計画と指導案
4	図形の模擬授業とその評価・1学年「かたちあそび」の指導計画と指導案
5	数量関係の模擬授業とその評価・2学年の指導のポイント
6	数と計算の模擬授業とその評価・2学年「100より大きい数」の指導計画と指導案
7	量と測定の模擬授業とその評価・2学年「長さをはかる」の指導計画と指導案
8	教材研究と学習指導案の作成・2学年「かけざん」の指導計画と指導案
9	教育機器を利用した授業とその評価・3学年の指導のポイント
10	数と計算の模擬授業とその評価・3学年「わりざん」の指導計画と指導案
11	量と測定の模擬授業とその評価・3学年「重さ」の指導計画と指導
12	教育機器を利用した授業とその評価・3学年「時刻と時間」の指導計画と指導案
13	小学校低学年の算数科指導における留意点
14	小学校高学年の算数科指導における留意点
15	試験

評価

出席状況と指導計画、学習指導案、模擬授業(70%)、試験(30%)で評価。60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】学力向上フロンティアスクールの実践9

「算数科コース別指導による確かな学び 1-3年実践編」 明治図書

【推薦書】学力向上フロンティアスクールの実践10

「算数科コース別指導による確かな学び 4-6年実践編」 明治図書

学力向上フロンティアスクールの実践8

「算数科コース別指導による確かな学び 理論編」 明治図書

科目名	初等理科指導法		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「理科」について、興味関心を高め、基本的概念や定理法則等を系統的構造的に捉え科学的自然観を養う。理科離れ傾向の強い今日、教師が理科という教科の特性を認識し、児童が自然の事物現象に対して関心を持ち自ら働きかけが出来るように仕向けて行きたい。小学校理科A-物質・エネルギー、B-生命・地球の各内容を教科書から具体的に取り出し、出来る限り楽しく生活化していく「わかる理科」として学校現場に照らした内容で解説をしていきたい。

内容

1	オリエンテーション、自然科学の中の「理科」とは
2	教職と小学校理科、理科の目的、基本と基礎、関心と興味について
3	第3学年(A) 物質・エネルギー：物の重さ、風やゴムの働き、光の性質
4	第3学年(A) 物質・エネルギー：磁石の性質、電気の通り道
5	第3学年(B) 生命・地球：昆虫と植物、身近な自然の観察、太陽と地面の様子
6	第4学年(A) 物質・エネルギー：空気と水の性質、金属、水、空気と温度、電気の働き
7	第4学年(B) 生命・地球：人の体のつくりと運動、季節と生物
8	第4学年(B) 生命・地球：天気の様子、月と星
9	第5学年(A) 物質・エネルギー：物の溶け方、振り子の運動、電流の働き
10	第5学年(B) 生命・地球：植物の発芽、成長、結実、動物の誕生
11	第5学年(B) 生命・地球：流水の働き、天気の変化
12	第6学年(A) 物質・エネルギー：燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の利用
13	第6学年(B) 生命・地球：人の体のつくりと働き、植物の養分と水の通り道、生物と環境
14	第6学年(B) 生命・地球：土地のつくりと変化、月と太陽、
15	「理科」のまとめ

評価

毎時間CPを利用、問題提示により解答、次時にそれを解説し、日常化を勤める

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領解説 理科編(平成20年8月)

科目名	初等生活科指導法		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校生活科をどのように低学年児童に指導すればよいかを具体的な実践を踏まえて行う。幼稚園・保育所と小学校の連携をはかり、幼稚園要綱や小学校学習指導要領に基づいて生活科のねらいや目標、指導内容を押さえる。また、指導力を高めるために協力して活動指導案作成や模擬授業を行い、さらに児童の実践体験の一部も加えて理解を深める。

内容

- 1、ガイダンス及び生活科の特徴と関連
 - ・生活科の誕生と幼小関連の重要性 小学校低学年に位置づいている理由と教科の特性
- 2、生活科教科書を読み解き具体的な学習内容の構成を知る。(年間指導計画)
 - ・2年間の学習内容の流れの事例を教科書から大単元に起こしてみる。
 - ・具体的な観点別の活動内容を1つ選び指導案を作成する。
- 3、小学校生活科の実践について指導法を考えながら実習する。
 - (1)自然とかかわり、キャンパス畑の観察や種まき収穫を体験する。
 - ・飼育栽培について学び具体的な活動を考える。
 - (2)どのような活動ができるか考えながら大学内外の探検をする。
 - ・表現方法を工夫し、探検に関する作品を1点仕上げる。(例 マップ、冊子、紙芝居等)
- 4、指導案作成と模擬授業
 - ・主な単元から1コマの授業の取り出し、指導案を作成する。
 - ・類似内容の仲間で指導案を見合い修正し、模擬授業を行う。

評価

出席状況20点、授業中の意欲や態度15点、毎回の課題45点、実習や作品20点で総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校生活科教科書 東京書籍、小学校学習指導要領解説 生活科編 文科省

【推薦書】生活科事典 東京書籍 【参考図書】授業内で提示する

科目名	初等音楽科指導法		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解させた上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とします。特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につけます。

またその知識を生かして、指導案を作成し、実際に模擬授業などを行い、小学校における音楽教育の指導力をたかめることを目指します。

内容

1. 音楽教育とは？
2. 小学校学習指導要領 音楽について
3. 音楽の歴史
- 4-5. 音楽理論
- 6-9. 音楽表現について(低学年・中学年・高学年)
- 10-12. 歌唱指導について
- 13-14. 楽器指導について
15. まとめ

評価

出席50%、定期試験50%で総合的に判断する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「初等科音楽教育法」(音楽の友社) 「音楽科指導書 音楽編」(文部科学省)

科目名	初等図画工作科指導法		
担当教員名	瀧田 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校における図画工作科の意義や内容についての理解を深め、人間形成の上で大切な、豊かな感性や創造力を引き出す造形教育の在り方を考察する。

あわせて、実習や教材研究を経験することを通して、小学校の図画工作科の授業を担当する上で大切な資質となる、造形の楽しさやよさへの理解を図る。

さらに、子どもの表現を理解し、支えることのできる教師を目指して、学習指導案の作成や、評価、支援の方法などについて実践的に学び、図画工作科指導に関する知識と具体的な指導法を習得する。

内容

図画工作美術教育の変遷や学習指導要領に示された目標や内容を読み解きながら、あるいは、映像視聴やディスカッション、模擬授業などを取りいれながら、具体的実践的に学んでいく。

あわせて、各領域の実技の基礎基本を習得するとともに、材料や用具の特性および使用方法についての知識と技術を身につける。

1	図画工作科教育の意義
2	子どもの発達と表現
3	造形遊びをする活動 教材研究
4	図画工作科教育の変遷
5	絵や立体に表す活動 教材研究
6	絵や立体に表す活動 教材研究
7	工作に表す活動 教材研究
8	鑑賞する活動 教材研究
9	図画工作科の指導の特色と教材研究
10	評価の考え方と方法
11	図画工作科の指導案の作成
12	模擬授業
13	模擬授業
14	子どもの姿と教師のあり方から語り合う
15	試験

評価

教材研究・演習及びレポートなど60点、試験40点により、取り組みの様子などもふまえて総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 （日本文教出版）

造形授業研究会 「図工の授業をデザインする」 （東洋館出版社）

推薦書

鈴石弘之ほか 「学校で用いる文具・道具の使い方 早わかり」 （小学館）

科目名	初等家庭科指導法		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また教科書の内容から調理実習や被服製作など実際に体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りも行い模擬授業の経験も取り入れるようにする。

内容

- 1、本授業のガイダンス(授業計画、準備するもの、評価など)
- 2、家庭科の教科書を見て5,6年生の2年間に授業で扱う内容を把握する。
 - ・児童の視点で教科書を見て気づいたことを話し合ってまとめる。
 - ・教師の視点で再度教科書を見てどのような働きかけができるかいくつかの事例について話し合う。
 - ・学習指導要領を見直し、どの教材がどういう形で取り上げられているか照合してみる。
- 3、指導法の研究
 - ・指導してみたい題材を見つけ指導案を書いてみる。
 - ・互いに発表し合ってよいところや問題点を話し合う。
 - ・代表が模擬授業を行い、授業の進め方の改善点を話し合う。
- 4、実際に実習をしてみる
 - ・食領域から調理実習 2～3回
 - ・衣住領域から被服製作2～3回
 - ・家族領域の実習1～2回

評価

出席状況30点、授業への取り組みと態度15点、課題の記録やレポート45点、作品10点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】小学校家庭科教科書 開隆堂出版、小学校指導要領解説 家庭科編 文科省
- 【推薦書】家庭科はおもしろい 牧野カツコ監修 国土社、授業力UP家庭科の授業 鶴田敦子編著日本標準
- 【参考図書】ティーンガイド 2冊 牧野カツコ監修、家庭科再発見 堀内かおる編著 開隆堂

科目名	初等体育科指導法		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。小学校の教員として、児童の成長や運動技能の発達状況を把握する素地を高めるとともに、安全に留意して運動に取り組ませることの重要性を意識させたい。

内容の項目に示した4つの観点から授業を展開して、子どもの身心の発育発達と運動技能の向上についての理解を深めさせる。

内容

児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識に留意しながら、小学校における体育科の意義と重要性を理解し、安全で効率的な体育授業を企画・運営できる基本的な能力と指導法の原則を理解させていく。体育授業の映像や模擬授業等をもとに、可能な限り体育の授業を実践的に指導するポイントやノウハウについても学ぶ機会を設定する。

体育科の定義および体育授業を取り巻く制度的な条件の概要

体育科の目標・内容・その取り扱いについて(初等教育全体・学年別)

体育科の授業づくりと指導技術について

- ・授業づくりの構造理解
- ・指導計画と指導案作成の手順
- ・学習過程と指導技術の関連
- ・補助法のポイントの理解

運動領域別(保健も含む)の指導法について ~ 模擬的な指導体験学習・発表活動を中心に

普通教室での講義の他に、体育館(アリーナ)等で実技を伴う学習活動も実施する予定である。運動着、運動靴を準備すること。

評価

出席50点(1回欠席につき3点の減点)、発表活動およびレポート30点、試験20点による評価を行い、60点以上を合格とする。出席数が10回未満の場合には単位を認めない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成20年度)

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「体育科教育学入門」 大修館書店

安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 Q & Aと授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科目名	道徳の指導法		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私事化、価値多様化が指摘されるなかで、これからの学校での道徳教育が担うべき課題は、これまで以上に、複雑、多岐にわたるものになるであろう。

本授業では、学校での道徳教育をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における「道徳の時間」の指導と実際について学ぶことを主たるねらいとする。

内容

1. 価値多様化社会のなかでの子どもの価値形成について考える
2. 道徳と教育、心の教育
3. 学校での道徳教育と「道徳の時間」の位置づけ、役割
4. 道徳教育の変遷 - 明治期における道徳教育
5. 道徳教育の変遷 - 「道徳の時間」の特設
6. 「道徳の時間」の指導と学習指導案の内容について
7. 学習指導案の形式 - 「基本型」の学習指導案と資料について
8. 「基本型」の学習指導案の作成
9. 学習指導案の形式 - モラル・ジレンマの指導案とジレンマ資料について
10. 発達に応じた指導とは 道徳性の発達理論について
11. 発達に応じた指導とは 道徳性の発達理論について
12. 映像資料の活用
13. 心のノートの活用について
14. 他国にみる道徳教育の実践と再編
15. 試験

評価

試験60%、課題提出20%、授業への参加度20%による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小寺正一・藤永芳純 編『新版 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	特別活動の指導法		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 学校教育の今日的課題である「生きる力」を育成することが重要な課題である。その課題を果たすべき役割を特別活動の視点から考察する。
2. 特別活動の理念や歴史について学び、学校教育における特別活動の位置づけについて理解を深めるとともに、特別活動の進め方について実践的に考察する。
3. 初等教育における特別活動の目標・内容・指導のありかた等について考察する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史の変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践(1)	
14	14. 模擬授業の実践(2)	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物(ぎょうせい出版)

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生徒指導については、高校時代までに、指導を受けるという経験を通して、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法（観察法）
8. 児童・生徒理解の方法（面接法）
9. 児童・生徒理解の方法（検査法）
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. 試験

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて、別途プリントや資料を配布して、講義形式で行う。そして、質問を発して考えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回、授業の最後の5分間で、その時間に学んだ事項に対する理解を深めるべく、課題を与えて解答してもらう。

評価

出席と受講態度（10点）、レポート（10点）、試験（80点）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川?成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

江川?成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 保育者として必要な子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得る。
- 2 子ども及びその家族に対する援助、支援について理解する。
- 3 子ども家庭福祉における保育士の役割を理解する。

内容

1	オリエンテーション・私達の眼から見た「今の子どもをめぐる状況」
2	最新データから～「今の子どもをめぐる状況」と課題
3	今までのあゆみをたどってみると～子ども家庭福祉の歴史
4	法律ではどう定められているだろうか～子ども家庭福祉の法体系
5	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉の行政機関
6	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉施設
7	もう一度確認しよう～中間試験(基本知識の確認のために)
8	子どもの権利条約
9	子どもへの虐待 (基礎知識中心に)
10	子どもへの虐待 (予防と対応策について)
11	子育て支援と次世代育成支援サービスの展開
12	子育て支援・次世代育成支援と保育士の役割
13	子ども家庭福祉実践とは～専門職としての保育士の役割
14	まとめ～子ども家庭福祉の課題
15	定期試験

評価

定期テスト40点、中間テスト30点、提出物(小レポート)20点、出席点10点により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

伊藤良高 編「子ども家庭福祉のフロンティア」晃洋書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 保育者として必要な子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得る。
- 2 子ども及びその家族に対する援助、支援について理解する。
- 3 子ども家庭福祉における保育士の役割を理解する。

内容

1	オリエンテーション・私達の眼から見た「今の子どもをめぐる状況」
2	最新データから～「今の子どもをめぐる状況」と課題
3	今までのあゆみをたどってみると～子ども家庭福祉の歴史
4	法律ではどう定められているだろうか～子ども家庭福祉の法体系
5	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉の行政機関
6	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉施設
7	もう一度確認しよう～中間試験(基本知識の確認のために)
8	子どもの権利条約
9	子どもへの虐待 (基礎知識中心に)
10	子どもへの虐待 (予防と対応策について)
11	子育て支援と次世代育成支援サービスの展開
12	子育て支援・次世代育成支援と保育士の役割
13	子ども家庭福祉実践とは～専門職としての保育士の役割
14	まとめ～子ども家庭福祉の課題
15	定期試験

評価

定期テスト40点、中間テスト30点、提出物(小レポート)20点、出席点10点により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

伊藤良高 編「子ども家庭福祉のフロンティア」晃洋書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子ども家庭福祉の今日的な課題を把握し、法規・施策・実際の援助について考察を深めることを目的とします。各自の実習体験や実生活での経験も踏まえながら、ビデオ視聴やディスカッション、テーマに応じたグループワークなどを通して「子ども家庭福祉」で学んだ知識をさらに深めていきます。

内容

1	オリエンテーション 現代社会の子どもを取り巻く環境の変化や現状
2	現代社会の子どもを取り巻く環境の変化や現状
3	子ども観の変遷と子どもの人権
4	子ども観の変遷と子どもの人権
5	保護の必要な子どもへの援助・支援システム (法規及び施策)
6	保護の必要な子どもへの援助・支援システム (援助の実際)
7	児童虐待について
8	障害を持つ子どもや家庭の福祉について
9	子育て支援について
10	非行問題への対応と自立支援について
11	海外の子どもの福祉について
12	海外の子どもの福祉について
13	福祉施設で働く専門職の役割について
14	まとめ
15	定期試験

評価

定期テスト50点、平常点(小レポートなど)40点、出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、毎回配布するプリントを中心に進めていきます。参考文献、資料は講義内で適宜紹介します。

科目名	社会福祉		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉の動向にあわせて新しい福祉の特徴を学ぶ。社会福祉基礎構造改革が具体的に動き出し、あわせて次世代育成支援法や介護保険法改定、さらに障害者自立支援法の制定が福祉現場に提起している課題は何かを学ぶ。

前半で、さまざまな社会福祉状況を事例をふまえて学んでいく。その上で広い意味での援助論リソナル・グループワークを集団保育に関連づけて余暇指導の実技を取り入れ、社会福祉の原理を後半に学ぶ。

先に社会福祉の現状を考え、それを土台にして歴史や制度への関心につなげて現代の社会福祉の理解を深めていくことをねらっている。

社会福祉が生活問題を解決するための単なるサービスにとどまらず、人として深く関わることをノーマライゼーションの考え、QOLの追求等を含む人権や人権尊重の運動と理念から学ぶ。

内容

- 1 社会福祉とは<身近な事例を通して>
- 2 どうして社会福祉は必要なのか
- 3 児童福祉<子ども虐待の実態、要保護児童の実態
- 4 保育と子育て支援女性福祉と家庭福祉の接点、家庭内暴力DVの定義
- 5 障害者福祉<特別なニーズの事例：映像VTRで学ぶ>
- 6 高齢者福祉 公的扶助=セーフティ・ネットワーク
- 7 医療福祉 司法福祉
- 8 地域福祉
- 9 社会福祉の経営
- 10 社会福祉の援助
- 11 社会保障と社会福祉 ~社会福祉基礎構造改革~
- 12 欧米の社会福祉の歴史
- 13 日本の社会福祉の歴史
- 14 社会福祉の財政と法制度と実施機関
- 15 まとめ：社会福祉の学習を深める。

評価

自主的、自発的活動報告レポートが20%、定期試験50% 出席が20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】宮田和明、柿本誠、木戸利秋、小松理佐子、竹中哲夫、山口みほ編
『現代の社会福祉入門』 みらい

科目名	養護原理		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護とは「養育」と「保護」を合せた言葉である。子どもの情緒的、身体的、社会的な成育を行う「養育」、親による「保護」および、その「養育」に不足が生じた子どもを社会が代わって行う「社会的保護」とが合わさったものである。

子どもの減少に反して社会的養護の対象児童が増えてきている。すべての子どもが要養護化してきている。施設入所に行かないまでも、施設でのショートステイの利用者の家庭を見ると「一時的、利用で本当に良いのかと思われるほど子どもが諸問題をかかえている」と現場の関係者は心配している。

3年生の施設実習(保育所以外)の準備を念頭において 乳児院 児童養護 知的障害 身体障害のどの施設に配属されても対応できるように、児童養護のテキストを中心に学んでいく。

内容

- 1、 施設で暮らす子どもと施設の役割 (1回) 1章 2章 3章 20章
- 2、 養護問題の発生と関係機関との関わり(1回) 4章 12章<里親その他の社会的養護>
- 3、 施設養護の体系 児童養護の歴史、欧米と日本(1回)
- 4、 ホスピタリズム、ノーマライゼーションと児童養護の理論 (1回)
- 5、 児童養護の領域と制度・政策 (1回)
- 6、 施設における子どもの権利 (1回)
- 7、 児童養護の原理・原則 (1回)
- 8、 養育環境に問題のある子どもの施設養護の実際
- 9、 障害のある児童のための施設と養護 (1回)
- 10、 子どもの生活と職員の援助の実際 (1回)
- 11、 困難を抱えた子どもへの対応と援助 (1回)
- 12、 虐待を受けた子どもへの援助の実際 (1回)
- 13、 施設の設備と運営 (1回)
- 14、 施設保育士の専門性
- 15、 復習、まとめ

評価

試験：50% 出席：30% レポート：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修 浅井春夫、編集 中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

科目名	養護内容		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護内容は、2年後期の養護原理の授業で学んだ内容を踏まえて学習をすすめていく。児童養護施設を中心にした教科書を使用し施設保育士(レジデンシャル・ケア・ワーカー児童指導員)の担当すべき領域について理解を深めていく。それと平行して担当者の児童養護施設の資料(断片的な記録)知的障害児施設での実習記録を養護内容の項目と照らし合わせていただく。その作業を通して疑問に思い、さらに興味・関心もった内容を取りあげレポートし意見交換する形ですすめたい。テキスト、実習記録、紹介された文献を手がかりに自発的にレポートを提出し共に刺激し学びを深める演習授業になることをねらっている。

内容

- 1、 施設養護の原理 1～6 児童養護の実践指針、子ども版実践指針
- 2、 施設との出会い 7施設入所の前夜 13施設の1日～ゆとりある楽しい生活をめざす
子どもを受け入れるとき 援助方針の樹立 ラポールの形成
- 3、 施設で暮らす・地域で暮らす 14個別の援助 集団の援助 幼児の援助
休息・余暇・遊びの援助 体罰や粗野な扱いをなくす
- 4、 性への援助一年長児への援助 年少児への援助
- 5、 進路援助・進学援助・自立への援助
- 6、 子どもと家族への援助 29共同子育てのすすめ 32在日外国人と養護問題
- 8、 問題行動などの理解と援助の基本
- 9、 家出、暴力、いじめ、薬物濫用など
- 10、 児童虐待問題にどう取り組むか
- 11、 施設保育士として働く意義・働きがい
- 12、 若い職員<実習生>への期待
- 13、 施設運営と法律問題
- 14、 児童養護問題をもう少し深く学ぶために
- 15、 まとめ、児童養護の新しい動き

評価

テキストで学んだこと、配布された資料についてレポート提出 50%
自発的に提出された読書感想、文献実践記録コメント 20% 出席 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】朝倉恵一・神田ふみよ・喜多一憲・竹中哲夫編集 『児童養護への招待』

【参考図書】浅井春夫監修、中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

<養護原理で使用した参考図書は、毎時間、教科書と一緒に持参すること>

科目名	児童保健学		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもの健康を「身体的、精神的、社会的に良好な状態である」という視点で考える。子どもが生まれ育ってゆく過程とその環境を理解し、個々の知識をその中に位置づける。児童保健学は子どもの心と身体についての学習とともに、栄養・生活習慣・集団生活、疾患予防・安全とこれらを保証する社会の仕組みを総合的に学び、実践できることを目標とする。

内容

小児の発育や発達について理解し、栄養や生活習慣・集団生活、病気とその予防、事故(安全)対策、養護について必要な知識や援助方法、これらをささえる社会のシステムを学ぶ。

限られた時間のため、教科書中心となるが、乳幼児に接する経験に乏しい学生にも理解可能なものとする。

講義の順番は、必ずしも教科書の順番と同じではないが、以下の項目をカバー する。

1. 小児保健の基本

小児保健の考え方、小児保健の現状と課題、母子保健サービスのしくみ

2. 子どもの発育と発達

子どもの発育と発達を、出生前から順に、その段階と課題に分けて考える

3. 子どもの生活と養護

基本的な生活習慣、生活リズム、摂食行動、衣生活、排泄機能等を考える

4. 子どもの病気とその予防

子どもの病気の考え方と、症状からみたケア、予防について学ぶ

5. 子どもの安全と応急処置、安全教育

子どもの事故、安全教育について学ぶ

6. 集団生活の場における保健

7. 児童保健学の課題

病児保育、子ども虐待、子育ての社会化と孤立する親

評価

集中講義のため、1回の試験(100点満点)をもって評価をおこなう。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】天野敦子他著 『子どもの保健 - 理論と実践』 日本小児医事出版
(教科書は最終試験のさいにも必要ですので必ず一人一冊購入してください。)

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもとは、形態的にも機能的にも成長発達の途上にあり、すべてが未完成であり、未熟であり、内外的環境の影響を受けて成長発達していく。ここでは特に乳幼児期の子どもを中心に、子どもを取り巻く生活環境や個別性を理解し、子どもの健全な成長・発達を支援するための保育・養護の知識と技術を学習する。また、子どもの健康状態の把握や異常の早期発見、疾病予防や救急処置および看護について理解し、実践できる知識と技術を習得する。

内容

- 1.子どもの健康状態の観察
- 2.子どもの身体発育の測定と評価
- 3.子どもの発育・発達の観察と評価
- 4.子どもの生活と養護技術
- 5.子どもの疾病予防と対策
- 6.子どもの病気と看護
- 7.乳幼児の事故と応急処置
- 8.事故予防と安全管理、安全教育

講義演習および実習と学生によるプレゼンテーションで展開する。

評価

授業への参加状況(20点)、レポート(50点)、学生のプレゼンテーション(30点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】千羽喜代子・吉岡毅・長谷川浩道 『実習育児学』 日本小児医事出版

【推薦書】日本外来小児科学会編著 『お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド』 医歯薬出版 598.3/N

田中哲郎著 『新子どもの事故防止マニュアル』 診断と治療者

兼松百合子・遠藤巴子編著 『小児保健実習』 同文書院

科目名	精神保健		
担当教員名	伊藤 美紀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

精神保健は、「人間の心の健康」の維持・向上と、不健康な状態の予防・早期発見・治療についての学科であり、保育士資格取得のための必修科目のひとつである。

ここでは、精神医学・心理学・社会学等のエッセンスが役に立つ。

本講座では、特に乳幼児期から児童期にある子どもの発達と、その時期に心理的問題となりやすい事柄とその対応の基礎について学習する。また、実際に子どもに関わっていく上では必要不可欠である、子どもをとりまく環境への視点、保護者サポート、家族への対応の基本について学習し、実践に役立つ基礎知識を習得していただきたい。

内容

1. 精神保健の基礎
2. 子どもをめぐる現代の課題と保育者の役割
3. 発達のつまずきへの援助
4. 子どもと家族関係
5. 子どもの健康障害と精神保健
6. 障害とその支援
7. 地域に広がる精神保健ネットワーク

授業では、講義のほか小集団活動や小レポート等を実施します。

評価

出席(授業中の課題・小レポートの提出)60点

学期末のペーパーテストもしくはレポート40点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】春原由紀編著 『精神保健 - 子どもと家族の援助のために - 』 樹村房

科目名	地域と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例(ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等)をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。自らの生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

内容

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域性の把握と生活問題
5	地域福祉の主体と多様な地域団体
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 老人給食をめぐって
8	事例検討 - お互い様の介護から
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - 育てあう関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分のすむ地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

出席および受講態度(20点)、授業における報告・発表(20点)、期末レポート(60点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 渋川智明『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/I

科目名	食と発達		
担当教員名	曾我部 夏子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児期における栄養と食生活は、生涯にわたる健康や生活の基盤である。つまり、身体の発育・発達のみならず、健全な心の育成、望ましい生活習慣の確立に重要な役割を果たす。そこで、小児期の栄養・食生活に関する基礎的な知識を習得し、保育者として小児の望ましい食生活について理解する。

内容

1	小児の健全な生活と食生活の意義
2	乳児期の栄養と食生活
3	乳児期の栄養と食生活(実習)
4	離乳期の栄養と食生活
5	離乳期の栄養と食生活(実習)
6	幼児期の栄養と食生活
7	幼児期のお弁当(実習)
8	幼児期の間食(実習)
9	食育のための栄養に関する基礎知識
10	食育 媒体作成 (演習)
11	食育 媒体作成 (演習)
12	食育発表
13	食育発表
14	まとめ
15	小テスト

評価

出席50点、発表10点、課題10点、小テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】飯塚美和子、桜井幸子編 『最新小児栄養 第6版』学建書院

【推薦書】新藤由喜子他著 『小児栄養 発達期の食生活と栄養』学建書院 498.59/H

亀城和子他著 『保育所の食事を通して食育を』学建書院 498.59/H

科目名	児童文化		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

子どもをどのように捉えるかという子ども観や、子どもの生命をどのように考えるかという生命観、そこから導かれる子どもにかかわる法律や制度、また、子どもに向けられた宗教・道徳、そして知識・技術のすべてが児童文化である。つまり、それらによって支えられた子どもを取り巻く衣・食・住の生活場面、家庭や保育所・幼稚園・学校での生活・そして近隣社会での生活と、子どもにかかわる生活文化の広がり全体が児童文化と考えられる。

具体的には、子どものための文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、放送、遊具、玩具などの児童文化財、また児童館、図書館、博物館、動物園、遊園地などの児童文化施設、そして子どもに本を読んだり、お話を語ったり、人形劇や芝居を上演するなどの児童文化活動などである。このように一般的には、大人が「子どものため」と、意識的に計画して作り上げて、子どもに与えた文化のことと考えられている。

しかし、それらに加えて、子どもが大人と共に創り、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化でもある。児童文化の歴史の変遷をたどりながら、大人と子どもの相互発信・相互受信の文化の形を紹介する。

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80%によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	児童文化		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

子どもをどのように捉えるかという子ども観や、子どもの生命をどのように考えるかという生命観、そこから導かれる子どもにかかわる法律や制度、また、子どもに向けられた宗教・道徳、そして知識・技術のすべてが児童文化である。つまり、それらによって支えられた子どもを取り巻く衣・食・住の生活場面、家庭や保育所・幼稚園・学校での生活・そして近隣社会での生活と、子どもにかかわる生活文化の広がり全体が児童文化と考えられる。

具体的には、子どものための文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、放送、遊具、玩具などの児童文化財、また児童館、図書館、博物館、動物園、遊園地などの児童文化施設、そして子どもに本を読んだり、お話を語ったり、人形劇や芝居を上演するなどの児童文化活動などである。このように一般的には、大人が「子どものため」と、意識的に計画して作り上げて、子どもに与えた文化のことと考えられている。

しかし、それらに加えて、子どもが大人と共に創り、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化でもある。児童文化の歴史の変遷をたどりながら、大人と子どもの相互発信・相互受信の文化の形を紹介する。

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80%によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	保育方法		
担当教員名	槇谷 厚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものです。

幼稚園、保育園は、幼児にとって初めての集団生活であり、そこで一人ひとりの成長を願い、ともに生活する保育者の役割は、きわめて重要です。その役割を確かめ、幼児期にふさわしい生活を支え、一人ひとりの成長に即した援助ができる保育者のあり方を考えます。

内容

幼稚園での日常の幼児の生活を、具体的に捉えつつ、各自が自分自身の問題として保育を考えられるよう、現場の幼児の姿を伝えていきます。実習などで各自が経験した幼児とのかかわりを思い出しながら、自分なりの保育観が描いていけるように考えています。

年間計画

- ・幼稚園って、どんなところだろう
- ・幼児が安心して、自分の思いを出せるようにするためには
- ・信頼関係を築くとは・・・
- ・「遊ぶことって 楽しい!」
- ・トラブルの大切さ
- ・人と関わることの心地よさが実感できる生活
- ・行事について・・・生活に変化と潤いを与えるために
- ・一人ひとりの充実感を支える 保育者のあり方とは
- ・一人ひとりの成長を どう捉えるか
- ・再び、幼稚園ってどんなところだろう そしてどんな保育者になりたい?

評価

出席50点(その都度小レポートあり)及びレポート50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

乳児保育 を基礎とする。現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を踏まえ、子どもひとり一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目的とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50点により評価を行い、総合60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	A2クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	A3クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	A4クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	A6クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A7クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場における自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B2クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B4クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場における自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A4クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A6クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A7クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法 」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法 」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法 」から履修を始める。

90 分を約6・7 人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法 の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法 」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B4クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B4クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向かった楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B4クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアノカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向かった楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアノカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向かった楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B4クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B4クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	音楽技術D		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速な変化を遂げる現代社会にあって、より人間らしく心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。その中でも歌唱はことばを伴っているため他の楽器とは異なり感情や情景など、より具体的な表現が可能である。しかしそのためにクリアしなければならない課題も多い。

この科目では様々な角度から歌唱における基本的な知識や技術を習得し、音楽の歓びを享受するとともに作品の理解を深め、いかに自己の描くイメージや思いをよりの確に表現するかを学んでいく。

またグループ活動に於いては各人が問題意識を持ち積極的且つ主体的に関り、相互信頼と協力を通して、幅広い音楽的能力の向上を図っていく。

内容

1. 音楽の基礎知識の学習 : 楽典及び声楽・器楽について。
2. 基本的発声法及び呼吸法 : 発声諸器官の構造及び機能の学習と実践。
3. 基礎的音感の習得 : コーリュ・ブンゲンや「わらべうた」を教材に、リズムや音程の正確な音感を養うと共に、初見視唱などの読譜力を身に付ける。
4. 歌唱法:教科書「みんなのうた」を使用し、レパートリーを広げながら楽しく伸びやかに歌うことを目的とする。そのために音楽と歌詞との関係や、作品の生まれた背景などを学習し、内容に即した唱法を学んでいく。
5. 鑑賞: 幼児音楽に限らず他のジャンルの音楽を鑑賞し、さまざまな角度から音楽を捉え、話し合いと実践を通して深い理解力と音楽性を身に付けていく。
6. 発表: 人形劇やオペレッタなどグループ発表によって歌唱へ積極的に関り、一つの作品を作り上げると共に、音楽面だけでなく責任感や信頼感、協調性、創造性など人間形成を図っていく。

評価

実技試験(60%) 鑑賞レポート(30%) 授業態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小林美実 『幼児のうた楽譜集』、『コーリュ・ブンゲン』、『コンコーネ』ほか

【推薦書】真篠将編著 『音楽通論』 全音楽譜出版社 761/M

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速な変化を遂げる現代社会にあって、より人間らしく心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。その中でも歌唱はことばを伴っているため他の楽器とは異なり感情や情景など、より具体的な表現が可能である。しかしそのためにクリアしなければならない課題も多い。

この科目では様々な角度から歌唱における基本的な知識や技術を習得し、音楽の歓びを享受するとともに作品の理解を深め、いかに自己の描くイメージや思いをよりの確に表現するかを学んでいく。

またグループ活動に於いては各人が問題意識を持ち積極的且つ主体的に関り、相互信頼と協力を通して、幅広い音楽的能力の向上を図っていく。

内容

1. 音楽の基礎知識の学習 : 楽典及び声楽・器楽について。
2. 基本的発声法及び呼吸法 : 発声諸器官の構造及び機能の学習と実践。
3. 基礎的音感の習得 : コーリュウブンゲンや「わらべうた」を教材に、リズムや音程の正確な音感を養うと共に、初見視唱などの読譜力を身に付ける。
4. 歌唱法:教科書「みんなのうた」を使用し、レパートリーを広げながら楽しく伸びやかに歌うことを目的とする。そのために音楽と歌詞との関係や、作品の生まれた背景などを学習し、内容に即した唱法を学んでいく。
5. 鑑賞: 幼児音楽に限らず他のジャンルの音楽を鑑賞し、さまざまな角度から音楽を捉え、話し合いと実践を通して深い理解力と音楽性を身に付けていく。
6. 発表: 人形劇やオペレッタなどグループ発表によって歌唱へ積極的に関り、一つの作品を作り上げると共に、音楽面だけでなく責任感や信頼感、協調性、創造性など人間形成を図っていく。

評価

実技試験(60%) 鑑賞レポート(30%) 授業態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小林美実 『幼児のうた楽譜集』、『コーリュウブンゲン』、『コンコーネ』ほか

【推薦書】真篠将編著 『音楽通論』 全音楽譜出版社 761/M

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ここでは「歌唱法」で習得した知識や技術を更にグレードアップし、様々な演習を通して作品の理解を深め歌うことの喜びを体得する。また保育現場の環境や状況に合わせ、適宜対応できる多様な音楽的能力の獲得をねらいとする。

そして前期の経験を生かしオペレッタのグループ活動では、各人新たな課題を持って積極的に関わり、舞台発表を通して相互協力と信頼関係を築き、音楽的能力のみならず人間形成の向上も図っていく。

また手遊びや手作り楽器の発表では、レパートリーを増やすと共に子どもを対象とした演奏技法や指導法について学んでいく。

内容

- 1、発声法と音感訓練
- 2、新しい教科書「歌の本」を使用し多様な表現方法の習得
- 3、舞台発表のフィードバック
- 4、手遊びのグループ発表
- 5、手作り楽器の製作と演奏
- 6、オペレッタ発表

評価

授業態度(20%) 試験(70%) レポート(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K

畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ここでは「歌唱法」で習得した知識や技術を更にグレードアップし、様々な演習を通して作品の理解を深め歌うことの喜びを体得する。また保育現場の環境や状況に合わせ、適宜対応できる多様な音楽的能力の獲得をねらいとする。そして前期の経験を生かしオペレッタのグループ活動では、各人新たな課題を持って積極的に関わり、舞台発表を通して相互協力と信頼関係を築き、音楽的能力のみならず人間形成の向上も図っていく。また手遊びや手作り楽器の発表では、レパートリーを増やすと共に子どもを対象とした演奏技法や指導法について学んでいく。

内容

- 1、発声法と音感訓練
- 2、新しい教科書「歌の本」を使用し多様な表現方法の習得
- 3、舞台発表のフィードバック
- 4、手遊びのグループ発表
- 5、手作り楽器の製作と演奏
- 6、オペレッタ発表

評価

授業態度(20%) 試験(70%) レポート(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K
畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳児は泣き声や表情の変化などで、生きている感覚を全身で表わそうとする。そして環境・他者・そして自分と次第に出会っていき、このことが造形的な活動の始まりである。育ちの過程で多様に変化する出会い・感じ・関わり、その感性の軌跡が、乳幼児の造形である。保育者は、その‘生きている’感覚とどのように関わり、また共感し受けとめればよいのか、人的な環境や保育環境づくりの在り方などを学ぶ。

内容

ものや人との関わりあいの中で、素材と触れあい、自己表現していくことは、造形活動として大切な要素である。人と素材との営みを相互に融合させながら、感性の培いや創る喜びを体験的に理解していく。

<内容1 素材との触れ合い>

様々な描画材を体感する・・・クレヨン・パス・絵の具・フェルトペンなどの特性を知り、表現方法を深める。描画材料のもつ魅力をしることにより、描くことの開放感を味わう。

身近な素材の発見・・・紙、新聞紙、泥土、砂、水、葉っぱなど身近な可塑性のある素材を通して、表現の喜びを体感する。気づきやイメージをふくらませるキッカケをつくり、それぞれの材料の特性を知ることにより、保育に生かす力を身につける。

<内容2 自己表現>

発想を広げる・・・素材との触れ合いにより、そこから生まれるイメージを大切に、創ることの喜びを体験していく。描くことや、つくることによって生まれる発見や感動を味わうことにより、ものとの触れ合いを深めていく。

イメージからの発展・・・素材性を理解することにより、表現の幅を広げ、豊かな創造性を養っていく。形見つけや、イメージ探しなどにより、概念的な絵画のイメージを壊し、新たな表現活動へと発展していくことができる。子どものような自由な発想ができるように、いろいろな実技を通し学んでいく。

評価

体験的活動を通して、意欲ある主体的な関わりについてみていく。

出席 25%

スケッチブックの内容 25%

積極性 20%

テーマや素材への応答性 20%

その他 10%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】

「毎日が造形あそび0～5歳児」平田智久著、学研

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の中に生まれる形のないもの(イメージ、感情、感動等)を、身体運動・動きにおきかえる活動を通して、感性豊かな学生の育成をはかるとともに、保育の中での幼児の身体活動をどのようにとらえ発展させていくかをあわせて考えていく。

内容

身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

基本的な運動の理解

基本的な運動を発展させたあそび

運動を構成する要因への理解

運動を発展・展開させていく方法

子どもたちの身近なあそびから身体表現へ

各種ジャンケンゲーム、伝承あそび、集団あそび

手あそび、指あそびから全身を使った表現へ

リズムカルな運動、身体表現的なあそび

音楽にあわせてリズムカルに動く

いろいろな刺激に身体で反応する

のように動いてみる

ノートの作成に関して(以下の観点から授業内容の記録をする)

- ・授業内容
- ・<動詞>を集める
- ・<擬音語・擬態語>を集める
- ・自身の反応、仲間の反応(生理的、心理的、運動的側面から)
- ・五感がキャッチしたこと
- ・今後の課題、問題点、調べたこと
- ・子どもウォッチング
- ・全体的な感想

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。出席点50%、実技試験40%、レポート10%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】レイチェル・カーソン 『センス・オブ・ワンダー』 新潮社 404/C

石亀泰雄 『さあ 森のようちえんへ』 ぱるす出版 376.1/I

レオ・バスカーリア 『葉っぱのフレディ』 童話屋 E/B

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の中に生まれる形のないもの(イメージ、感情、感動等)を、身体運動・動きにおきかえる活動を通して、感性豊かな学生の育成をはかるとともに、保育の中での幼児の身体活動をどのようにとらえ発展させていくかをあわせて考えていく。

内容

身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

基本的な運動の理解

基本的な運動を発展させたあそび

運動を構成する要因への理解

運動を発展・展開させていく方法

子どもたちの身近なあそびから身体表現へ

各種ジャンケンゲーム、伝承あそび、集団あそび

手あそび、指あそびから全身を使った表現へ

リズムカルな運動、身体表現的なあそび

音楽にあわせてリズムカルに動く

いろいろな刺激に身体で反応する

のように動いてみる

ノートの作成に関して(以下の観点から授業内容の記録をする)

- ・授業内容
- ・<動詞>を集める
- ・<擬音語・擬態語>を集める
- ・自身の反応、仲間の反応(生理的、心理的、運動的側面から)
- ・五感がキャッチしたこと
- ・今後の課題、問題点、調べたこと
- ・子どもウォッチング
- ・全体的な感想

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。出席点50%、実技試験40%、レポート10%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】レイチェル・カーソン 『センス・オブ・ワンダー』 新潮社 404/C

石亀泰雄 『さあ 森のようちえんへ』 ぱるす出版 376.1/I

レオ・バスカーリア 『葉っぱのフレディ』 童話屋 E/B

科目名	子どもと運動		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校期(7～12歳児)における子どもたちの発育発達に関する特性、特に運動にかかわる技能や動作の獲得について、講義や演習を通して理解することをねらいとする。この科目は児童教育専攻の専門科目であり、小学校教員として、児童の成長や運動技能の発達状況を把握する素地を高めていく必要性を意識させたい。内容の項目に示す3つの観点から授業を進めて、子どもの身体的な発育発達と運動技能の向上のあり方について理解を深める。

さらに、幼児期の発育発達の特性にも触れることで、幼児期から児童期へとつながる発育発達の意味についても学習させる。

内容

15回の授業を次のような3つに区分し、子どもたちの身体的な発育発達および運動技能の獲得についての基礎知識を深めていく。また体育授業の映像等をもとに、可能な限り体育の授業を実践する指導法のポイントについても触れる機会をトピック的に設けることにする。

児童期の運動技能の発達と習得について(低学年期の特性・高学年期の特性)

児童期の運動技能の発達や習得が子どもの成長全般及ぼす影響について(乳幼児期も含めて)

小学校の保健学習の理解(グループ活動によるまとめと発表活動・ポスターセッション)

以上のような授業を通して、「児童期に指導すべき運動や動作の順序性や適時性」、「児童期に習得可能な運動とその指導法の原則」、そして「幼児期と児童期の心身の発育発達や運動発達のつながりを意識する発想」の重要性を理解させたいと考える。

評価

出席60点(1回4点×15回)、発表活動等のレポート20点、試験20点による評価を行い、60点以上を合格とする。出席数が10回未満の場合には単位を認めない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小学校教科書 「新・みんなのほけん 3・4年」 学習研究社

小学校教科書 「新・みんなの保健 5・6年」 学習研究社

【推薦書】 安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 Q & Aと授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科目名	子どもと運動		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校期(7~12歳児)における子どもたちの発育発達に関する特性、特に運動にかかわる技能や動作の獲得について、講義や演習を通して理解することをねらいとする。この科目は児童教育専攻の専門科目であり、小学校教員として、児童の成長や運動技能の発達状況を把握する素地を高めていく必要性を意識させたい。内容の項目に示す3つの観点から授業を進めて、子どもの身体的な発育発達と運動技能の向上のあり方について理解を深める。

さらに、幼児期の発育発達の特性にも触れることで、幼児期から児童期へとつながる発育発達の意味についても学習させる。

内容

15回の授業を次のような3つに区分し、子どもたちの身体的な発育発達および運動技能の獲得についての基礎知識を深めていく。また体育授業の映像等をもとに、可能な限り体育の授業を実践する指導法のポイントについても触れる機会をトピック的に設けることにする。

児童期の運動技能の発達と習得について(低学年期の特性・高学年期の特性)

児童期の運動技能の発達や習得が子どもの成長全般及ぼす影響について(乳幼児期も含めて)

小学校の保健学習の理解(グループ活動によるまとめと発表活動・ポスターセッション)

以上のような授業を通して、「児童期に指導すべき運動や動作の順序性や適時性」、「児童期に習得可能な運動とその指導法の原則」、そして「幼児期と児童期の心身の発育発達や運動発達のつながりを意識する発想」の重要性を理解させたいと考える。

評価

出席60点(1回4点×15回)、発表活動等のレポート20点、試験20点による評価を行い、60点以上を合格とする。出席数が10回未満の場合には単位を認めない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小学校教科書 「新・みんなのほけん 3・4年」 学習研究社

小学校教科書 「新・みんなの保健 5・6年」 学習研究社

【推薦書】 安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 Q & Aと授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科目名	総合演習		
担当教員名	狩野 浩二、神山 輝夫、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた科目で、3年次前期に履修することになります。広い視野を持って現代的な課題を追究したり、そうした課題を子どもたちが学習する際の、指導方法を学んだりするために設けられました。

私たちの暮らす現代は、極めて変化の激しい時代です。自分たちの国だけでものごとを考えてはやっていけない時代です。常に日本と日本以外の地域との関わりを地球的な規模で考え、行動することが求められます。たとえば、人間尊重・人権尊重の精神、地球環境、異文化理解、民族対立・地域紛争と難民、人口と食糧、社会への男女の共同参画といった人類共通のテーマや、少子・高齢化と福祉、家庭の在り方など社会全体に関わるテーマのうちのいくつかについて、ディスカッション等を中心に学び合い、それらの内容を子どもの発達段階に応じてどのように教えたらよいかについて受講生同士で互いに学び合うことをねらいとしています。

内容

以下、演習のすすめ方についていくつかの内容を列記します(順不同)。

1. 総合演習のすすめ方(研究班作り、研究テーマ決定、発表の手順)
2. 研究班ごとの活動 研究テーマの検討
3. 研究班ごとの活動 研究テーマの班別調査(レファレンスを中心に)
4. 研究班ごとの活動 レファレンス結果の報告
- 5~9. 研究班ごとの活動 ~ 調査研究活動の展開
10. 研究班ごとの教材研究 (学習指導案づくり)
11. 研究班ごとの教材研究 (指導過程の検討)
- 12~15. 研究班ごとの模擬授業と講評 ~

評価

各班ごとの研究テーマ追究と、そのまとめとして作成するレポートづくり(20点)と模擬授業への参加と事後レポートづくり(80点)などを組み合わせて、総合評価します。大学の規程により、五分の四以上の出席で最終試験(レポートを含む)を受けることができます。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】教室で紹介します。

【推薦図書】池上彰の20世紀を見にいく(DVDブック)・池上彰・小学館

そうだったのかニュース世界地図2009・池上彰・集英社

グローバル・クラスルーム 教室と地球をつなぐアクティビティ教材集・デイヴィットセルビー他・明石書店

店

【参考図書】図書館の0番台(レファレンス資料、百科事典等)を活用してください。

科目名	保育実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、横井 紘子、金子 千代 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

原則3 年次に2 週間保育所で実習を行い、責任実習(部分)も先方の保育所との相談の上経験する(土曜日など半日を含む)。各自の保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは、全年齢のクラスに1~2 日間ずつ入れていただくようにして、年齢ごとの発達とそれに合わせたケアのあり方を学ぶ。担当保育者の指導を受けながら、生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺的な雑務を体験することも心掛ける。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に大事である。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、実習課題を明らかにし、学びを深化させていくことが必要となる。

また、子育て支援における新しい役割、保育士以外のスタッフの業務分担や協力関係にも学ぶようにしたい。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し家庭との連携の必要性を学び、あわせて地域との具体的なつながりについても問題意識をもるように心がけてほしい。

保育士資格を取得するためには、「保育実習」とともに必ず履修しなければならない実習である。(その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修、および保育特別実習の「」か「」を選択履修すること。)

内容

保育実習では上述したねらいを達成するために、実習施設の概要の理解、保育所保育の実情の理解(保育の流れ等)、乳幼児の発達、保育計画・指導計画の理解、多職種職員の連携によるチームワークの実情、家庭・地域の連携、保育方法と保育技能の理解と習得、安全・危機管理、疾病予防や健康維持を図る配慮、保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深めることとする。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。しかし、学生の帰省先や諸事情に合わせて、他の方法で実習の依頼をすることもあるので、希望する学生は幼児教育研究室で早めに相談すること。また、実習は原則3 年次の夏季9 月中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合もある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング(実習の準備も含めて)を立て、学生生活全体の調整をする必要がある。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	垂水 謙児、向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育実習 は、保育士資格取得の必修の実習である。3年次に11日間(90時間)、保育所以外の児童福祉施設 乳児院 児童養護施設 肢体不自由児施設 知的障害児(者)施設、児童の年齢オーバーした者の施設でも実習を行う。宿泊実習が原則である。しかし、実習生の宿泊設備がない入所施設の場合は、通いの実習となる。

学生にとって宿泊実習は不安と緊張感を与えるものである。不安を克服するために事前にボランティア活動をしたり、実践記録を読んだりして実習に焦点を合わせるようにする。

これまで「施設は頭ではなく 体力で働くところ」とか「施設に理論や技術は不要」などといわれ保育士や指導員の勤と常識に頼るいわば我流の生活指導が行われがちであった。

しかし、複雑多様化していく今日の子どものニーズに一貫して答えていくためには、子どもの発達・成長を理解し子ども達ひとり一人にきめ細かいアセスメント(事前評価)を行い、そのニーズに的確に把握し、個々の課題に向けて具体的プログラムを学ぶ。その指導方法の糸口を実習現場で見つけ出すことが保育実習 の<ねらい>である

内容

具体的な指導は実習総論 の年間30回の計画に従う。事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 リンテーション報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導(学内反省会) 個別指導(評価表にそって)

実習さきの施設は、大学の指定した施設で実習する。4月末から翌年3月末までに1名もしくは複数で実習を行う。実習は、なるべく授業のない時期に行うので、夏休みや期間休み、学園祭の前後になる場合が多い。しかし、受け入れ施設の都合により授業と重なる場合もでてくる。実習先決定後は、養護原理、養護内容のテキストと先輩の報告書、施設のホームページを利用して実習施設の報告書の作成にとりかかる。そのために選択科目の児童養護論が前期、後期に開講されているので受講すること。特に2月~3月に実習配属が決まった学生は、後期の児童養護論を履修し実習開始にそなえることを勧める。施設保育士(レジデンシャル・ソシアル・ワーカー4大卒指導員)の専門職の守備範囲の広さを自覚して事前準備をする。特に知的障害、身体障害で実習する場合は他の専門職と連携をとるために治療教育や看護・医学やOT作業療法PT理学療法ST言語療法のリハビリテーションの専門を事前に学び、チームワークがとれるようにしておく。

評価

実習先の施設による評価を基本としますが、施設によって基準が一律でないので、大学で総合的な評価への読み替えを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大島恭二編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	野口 隆子、垂水 謙児、横井 紘子、金子 千代 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習（「保」と略す）」「保育実習（「保」と略す）」のほかに、この「保育特別実習（「特」と略す）」か「保育特別実習（「特」と略す）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「特」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「特」を履修することとする。

「特」での実習は、さまざまな保育実態を鑑みながら学びを広げ、深めていくこと、「保」での学びの課題を繋ぐことを大きな目的とし、「保」とは違う保育所で体験することがのぞましいものとする。そのため「保」の実習経験と「特」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考える必要がある。たとえば、「保」で0～6歳児クラスをそれぞれ1～2日ずつ担当する実習をした場合、「特」ではある年齢の1～2クラスにて集中して学ぶというようなプランを立てた実習が考えられる。

各自の学びの課題を明らかにした上でのプランを立てて、受け入れ先の施設の実情に合わせて、大学の実習担当と相談して実習を進めていくこととなる。

内容

保育の実際と子どもの育ちの実情を概観した「保育実習1」での経験をもとに、保育全般に参加し保育技能を習得、子どもの個人差に応じた援助、多様な保育ニーズに対応した保育の展開、指導計画の立案と実践（責任実習）、家族や地域社会との連携、保育者の倫理観、保育への自己課題の明確化、といった視点をもち実習に取り組み、保育の学びを拡充することとする。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受けることになる。また、責任実習（一日の保育または部分）の実施にあたっては指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省をいう一連の保育の営みも体験することになる。「保育実習」で経験できなかったことをチャレンジすることになる。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括することとなる。

なお、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、実習先の保育所は自宅から通える地域の民間の認可保育所を自己開拓する場合と大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。実習時期は、原則3年生の2月下旬から4年生の9月ごろまでの間で大学の授業のない期間にて行うこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	垂水 謙児、野口 隆子、向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習 」「保育実習 ｣のほかに、この「保育特別実習 (特と略す)」、この保育特別実習 (特)」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「特 」、施設(保育所以外)における拡充を希望するならば「特 」ということになるが、受け入れ先との交渉や、その他の実習スケジュールとの関係次第でそのとおりにいかない場合もあるだろう。

「保育実習 」とどうリンクし、つなげていくかを、各自でよく考える必要がある。同じ種別の施設でも良いが、他種の施設を体験しておいた方が望ましい。いずれにしても必修「保育実習 ・ 」とつながりと展開のあるプランニングを立てたい。しかし、受け入れ先施設の方針と相容れないこともあるので、大学の実習担当ともよく相談して交渉する必要がある。学生一人ひとりで実習プランが違うので、それぞれ主体的に実習のねらいを絞り込んでおきましょう。

内容

日数は11日間(半日を含む場合はなるべく11日以上にする)。実際には「通い」型と「宿泊」型があるが、「通い」の場合は当然自宅から通える範囲となる。自己開拓する場合(大学から、あらためて正式に依頼状を出す)と、大学がすすめる障害児通園施設に配属される場合とがある。

施設種別は「保育実習 」とは別のほうが良いだろう。保育所以外の児童福祉施設として、通園施設、児童館など。実習時期は、大学の授業のない時期が望ましく、原則3年生の2月下旬ごろ(教育実習と重ならないように)から、4年生の9月ごろまでの間で決める。やむをえず先方施設の都合で、授業期間になる場合もあるかもしれない。実習日誌は毎日担当者に提出する。「保育実習 」で経験できなかった生活援助計画、個別援助(ケースワーク)、集団援助(グループワーク)計画案を責任実習に取り入れなどで色いろな形を経験しておこう。実習後は、保育日誌を補充して大学に提出する。

評価

実習先の施設による評価を基本とするが、施設によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価の読み替えを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大島恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	教育実践論		
担当教員名	狩野 浩二、神山 輝夫、佐藤 陽、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 教員(義務教育学校)免許取得のために義務づけられている「介護等体験」に必要な基本的知識を学ぶ。
2. 体験の対象となる社会福祉サービスを利用している人、社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を図る。
3. 体験時に必要となる対人援助について、コミュニケーションを中心に体験的理解を行なう。
4. 多様な価値観と幅広い人間観を培うことの重要性について学ぶ。

内容

時間外のオリエンテーション等を正規講義時間と振り替えて行うことがあるので、掲示等に注意すること。
 下記は、あくまで取り扱う内容を示したものである。

1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等の方法

2.介護等体験(福祉施設、特別支援学校等)

3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

授業時、実習時のレポート等【30点】、授業態度【20点】、介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価【50点】

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト】

埼玉県社会福祉協議会「学生のための介護等体験埼玉ガイドブック」

科目名	児童英語		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to 20 students at the most.

評価

Evaluation will be based on attendance and participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

Materials will be provided by the teacher.

科目名	教育方法		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育方法は広義には、教育内容、学習形態、教授組織、教育メディア、学級経営、生活指導、学習環境、授業評価など、学校教育に関するあらゆる技術的な問題を扱う分野である。

本講義では、授業設計を中心に学ぶ。授業設計の中に取り入れるさまざまな情報機器の活用（特にコンピュータの利用）の方法について学ぶ。

内容

1. 教授・学習過程のシステム分析（ブラックボックスと制御システム）
2. 教授・学習過程とコミュニケーション過程（コンフリクトをもつフィードバックシステム）
3. カリキュラム開発と教育工学
4. 授業目標の設定（教育目標の分類と行動目標、評価の観点、ルーブリック）
5. 学習集団の編成（学級集団、集団の機能、集団学習形態の特質、集団の編成）
6. 授業の個別化の理論と実際（適性処遇交互作用、コンピュータによる個別化）
7. 教材とその開発研究（教材作成の意義、教材の評価の観点、教材作成の研究的意義）
8. 教授メディアの考え方
9. 教授メディアを活用した学習指導案と授業実施
10. ICT（情報機器）の授業への利用と実際
11. プロジェクタ教材を活用した授業（プレゼンテーション技法）
12. コンピュータ実習（コースウェア作成技法1）
13. コンピュータ実習（コースウェア作成技法2）
14. 授業改善のための評価基準
15. まとめ

評価

最終レポート（50%）、課題等の提出物（30%）と授業中の課題への取り組む（10%）、出席状況（10%）による総合的な評価とし、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定なし。毎時間資料を配布する。授業用フォルダ内に授業用ワークシートを置く。

【参考書】教育方法 の教科書、松平信久・横須賀薫編 『教育の方法・技術』 教育出版

科目名	近代教育史		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちにとって身近な教育という営み、なかでも学校教育は、歴史において近代と呼ばれる特定の時代に誕生し、作りだされたものである。子どもとはどのような存在なのか、子どもの視点にたった教育とはどのようなものなのか、いかに分かりやすく教えるべきか、学校の役割とはどのようなものか、等々、これらの教育をめぐる問いは、歴史の中で決して一様なものではありえず、多様なかたちをとりながら、今日にまで引き継がれてきた。

この授業では、欧米を中心とする教育の歴史をとりあげながら、近代における教育への眼差しと問いのあり方について学ぶ。教育の過去から現在へ、現在から過去へ。過去との対話によって、今日における教育の諸相を明るみにし、私たちの教育の現在を読み解くための手がかりを掴むことをねらいとする。

内容

1. 近代における子ども期の誕生 中世の子ども観から近代の子ども観へ
2. 近代における学齢期の誕生 中世の見習奉公から近代の学校教育へ
3. 印刷術の発明と教科書の誕生 コメニウスの『世界図絵』
4. 子どもに何を教えるべきか コメニウスの『世界図絵』
5. どのように分かりやすく教えるべきか コメニウスの『大教授学』
6. 習慣形成と教育 ロックの『教育論』と近代イギリス
7. 「子ども」の発見 - ルソーの『エミール』と近代フランス
8. 『エミール』を読む(1) - 感覚教育・消極教育
9. 『エミール』を読む(2) - 人間の教育
10. フレーベルにみる「遊び」の教育学
11. 公教育の実現から新教育運動の時代へ 子どもからの教育を考える
12. 教育と経験、自己活動
13. デューイ・スクールの実践 - 『学校と社会』
14. 課題発表とまとめ
15. 課題発表とまとめ

評価

課題発表60%、出席20%、授業への参加度20%による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に用いません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦書】天野知恵子『子どもと学校の世紀』岩波書店

【参考図書】江藤恭二ほか『新版 子ども教育の歴史』名古屋大学出版会

科目名	教育社会学		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育のあるべき姿を説く教育論には、それを語る人の個人的思い、理想、願望だけでなく、社会における教育の位置づけや意味づけが反映されている。教育社会学は、理想論として教育を語るというスタンスから距離をとり、可能な限り、教育のリアリティに迫ることを固有の課題としながら、アプローチのために適切な手法を編みだしてきた。

本授業では、いじめ、不登校、学力低下など、私たちの身近な教育問題を扱った教育社会学の基本文献を紹介しながら、問題とされるべきは何かを考え、私たちが、日々、当たり前とみなしている教育現実を複眼的に考察することをねらいとする。

内容

1. イントロダクション 教育を社会の眼差しで見るとは
2. 教育と社会化 - しつけと社会化、学校と方法的社会化
3. 教育と社会化 子どもの社会的自己形成を考える(自己・他者・役割取得)
4. かくれたカリキュラム - 生徒は実際に何を学んでいるのか
5. かくれたカリキュラムの諸相
6. 現代社会と教育問題 - いじめの今日的状況
7. 現代社会と教育問題 - 不登校
8. 教育問題へのアプローチ ポンド理論と社会的絆への着目
9. 学力問題と階層
10. 学力問題への各国の取り組み
11. 学力問題への各国の取り組み
12. 学校をどうみるか - 機能主義モデル・メリトクラシー
13. 学校をどうみるか - コンフリクトモデル・学歴の再生産
14. 課題発表とまとめ
15. 課題発表とまとめ

評価

レポート50%、授業への参加度30%、出席20%点による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 苅谷剛彦ほか『教育の社会学<常識>の問い方、見直し方』有斐閣

【推薦書】 苅谷剛彦『階層化日本と教育危機』有信堂

【参考図書】 稲垣恭子編『子ども・学校・社会 - 教育と文化の社会学』世界思想社

苅谷剛彦『学校って何だろう - 教育の社会学入門』筑摩書房

科目名	児童社会学		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもという存在は、日本の伝統的社会においては、多くの人々による係わり合いや見守りの中で成育するものと考えられていた。家庭の中で抱え込むのではなく、社会の中でこそ育つ公的な存在だったのである。今日の社会においては、出生する子どもの数が減少しており、したがって兄弟姉妹も少なく、それに伴って親戚縁者も減っており、子どもたちの人間関係はもとより、生活経験、生活環境は狭まり、さまざまなコミュニケーションの機会も失われている。現代社会は、よって、往時以上に、子どもが社会の中で育つことを深く考慮することが重要な意味をもっていると言えよう。

子どもが社会の中で育つあり方を、子ども文化と社会教育の関連性の歴史から考察していき、未来への展望につなげたい。

内容

- 1 子どもの異人性
 - 福子としての捨て子・障害児(蛭子の由来など)
 - 申し子・授かり子・預かり子(天神縁起の由来など)
- 2 子どもの誕生と成長儀礼における他者の介在
 - 昔話にみる異類婚(狐女房、天人女房、竜宮女房など)
 - 取り上げ親、名付け親、乳付け親、元服親、筆親などの多くの仮親
 - 百徳着物という幼児着、五十日祝餅・百日祝餅の市餅
- 3 ばあや、ねえや、居候、書生たちのいた演劇的家庭
- 4 祭礼における地域文化の伝達教育
 - 伝説・昔話による地域記憶の伝承
 - 演劇(地芝居)・芸能による地域文化の伝承
- 5 街頭における遍歴する職人・芸人たち
 - 飴屋、おもちゃ屋、紙芝居屋など
- 6 社会化への道
 - 『たけくらべ』のなかの子どもと社会

評価

レポートによる100%評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】講義のなかで紹介していく。

科目名	特別支援教育論		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「特殊教育」から「特別支援教育」への流れの中で、普通学級においても特別な支援を必要とする児童への対応が求められている。そこで、この授業では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な支援ニーズがある障害の特性を理解する。この授業の到達目標は、特別支援教育の概略が説明できるようになること、特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法について説明できるようになること、である。

内容

- 特別支援教育とは何か 原理・制度の現状と課題
 - 特別支援教育の歴史と発展
 - 学校教育法と特別支援教育
 - 特別支援教育の現状
 - 特別支援教育と特別な教育的ニーズ概念
- 特別支援教育が必要な障害の理解と教育的支援
 - 視覚障害
 - 聴覚・言語障害
 - 知的障害
 - 肢体不自由
 - 情緒障害・自閉症
 - LD(学習障害)
 - ADHD(注意欠陥/多動性障害)
 - 高機能自閉症(アスペルガー症候群含む)
- 特別支援教育の展開
 - 小・中学校における校内支援システムと巡回相談
 - 特別支援学校と地域性
- 特別支援教育における関連領域の連携
 - 保育所・幼稚園の活用とその利用
 - 医療・福祉機関の役割とその活用

評価

前期試験による評価(70点) 中間レポートによる評価(20点)
平常態度の評価(10点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大沼直樹他編 『特別支援教育の基礎と動向』 培風館

【推薦書】湯浅恭正編 『よくわかる特別支援教育』 ミネルヴァ書房

綾屋紗月他 『発達障害当事者研究』医学書院

上野一彦他編 『特別支援教育実践ソーシャルスキルマニュアル』明治図書

科目名	特別支援教育実践演習		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

特別支援教育を実践していく上での基礎を身につけ、障害のある子どもたちへの教育的支援方法について説明できるようになることが到達目標である。本授業では、単なる知識の獲得にとどまるのではなく、グループによる調査・報告等の演習を通して、「障害」との関わりについて考え、「障害」の本質についての理解を深めていく。この授業を履修するためには、1年次開講の「特別支援教育論」の受講を済ませておくことが求められる。

内容

1. 特別支援教育とは何か
 - 1) 特別支援教育の現状と動向についての講義
 - 2) 特別支援教育現場の実際についての講義
2. 特別支援教育と医療、家庭、地域との連携について
3. 特別支援教育が必要な障害の理解と教育的支援方法
 - 1) 視覚障害
 - 2) 聴覚・言語障害
 - 3) 知的障害
 - 4) 肢体不自由
 - 5) 情緒障害・自閉症
 - 6) LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥/多動性障害)
 - 7) 高機能自閉症(アスペルガー症候群を含む)
4. 上記障害別の障害と教育的支援方法についてのグループ研究と発表

評価

中間レポートによる評価(20%) グループ発表とその成果物による評価(60%)
出席時の参加度を評価(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】上野一彦他編 『軽度発達障害の教育』 日本文化科学社

【推薦書】渡辺徹編 『Q & A クラスのなかの「気になる子ども」』 教育出版

筑波大学特別支援教育研究センター編 『特別支援教育の指導法』 教育出版

相川恵子他 『子どもに障害をどう説明するか』 ブレーン出版

科目名	子どもの運動発達論		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

高度情報化社会、超高齢化社会の到来とともに、健康で充実した生活を営むために運動が果たす役割はますます重要になってきている。特に、子どもの時期の運動経験は、その後の長い生涯における運動とのかかわりに大きな影響を与えることが明らかになってきている。

そこでこの講義では、主に下記のねらいで授業を行う。1) 生涯発達という視点から運動発達を理解する。2) 運動発達における学習(経験・環境)の重要性を理解する。3) 子どもとおとなでは運動発達の特徴がどのように異なるのかを理解する。4) 子ども期の運動発達の特徴に応じた運動指導の目標と内容について理解する。5) 高い運動意欲を持つ子どもを育てるにはどうすればよいかを理解する。6) 運動経験が精神的な発達にどのような影響を持つかを理解する。

内容

1. 発達の概念

発達とはどういうことか。運動発達における生涯発達とは。

2. 運動発達における成熟と学習

運動の発達に遺伝と環境がどのように関係しているか。

3. 運動発達から見た運動行動の構造

運動の上手下手、運動の上達にはどのような要因が関与しているか。

4. 運動発達の敏感期

子どもとおとなでは発達する運動能力がどのように異なるか。また、運動経験が運動発達に与える影はどのように異なるのか。

5. 運動の学習と動機づけ

運動好きの子どもを育てるにはどうすればよいか。また、運動嫌いをつくらないためにはどうすればよいか。運動の楽しさにはどのようなものがあるか。

6. 運動経験と心理的発達

スポーツや運動経験が精神的な発達とどのように関係しているのか。

評価

原則として毎時間行う小テストにより評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦図書 杉原隆 『運動指導の心理学』 大修館書店

参考図書 日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』 大修館書店

科目名	言語文化論		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本講座は、日本語、日本文化、日本文学に関する伝統的な系譜を辿る事を目的とする。即ち日本文化は、長い間かかって独自の文化を作り上げてきた。その文化に即して、言語もまた独自の歩みを遂げてきた。今日それらの文化と伝統は、失われつつある。私たちの時代において何をどう受け継ぐべきか改めて問われている。それらを言語の視点から考察する事を狙いとする。特に日本語の持つ独特のニュアンスをさまざまな角度から考察する事を狙いとする。同時に若者言葉にも触れておきたい。

内容

言語文化と一口に言ってもその内容は多岐に渡る。物語から近代小説、詩歌、歌謡、風俗、習慣、日常的な生活の中の大切な事柄等々、それらは決して意味が無いわけではないのに、その多くが元の意味を忘れていたり、または勝手な解釈をしているのが現状である、それ故、これ等のうち、全部は出来ないの、順を追ってそれらを考察してゆく事にする。これらについては、講義の始めに提示する。

評価

出席点50、レポート点50とする。

止むを得ない場合を除いて欠席の多い受講生は、評価の対象とはしない。

そのほか、ノート提出を行う場合があるので、常にノート整理はきちんとしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に用いない。

必要に応じて、読まなければならない文献を提示するので、これ等の要旨や、自分の考えなどを纏める作業を行う。

科目名	食指導論		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たち人間が生きていくためには「食」は欠かせない。また、子どもたちが健全な食生活を実践することは、健康で豊かな人間性を育てていく基礎となる。そして、生涯にわたり健全な食生活の実現を可能とし、心身の健康を確保するものである。子どもへの食育は知育、徳育および体育の基礎と位置づけられ、そのため様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を学習させなければならない。

ここでは、小学校教師として「食」に関する指導のために必要な基礎的・基本的な食の知識を学ぶ。

また、小学生の食生活の現状や問題点を把握し、それらを改善するための考え方や指導について理解する

内容

食教育論とは

1	食指導論とは(食育基本法を含む)
2	子どもの生活習慣について(健康の3原則)
3	子どもの生活環境
4	子どもの生活環境・食環境
5	子どもの体力の現状と食の関係
6	子どもの食生活の現状と問題点(朝食欠食・個食・孤食など)
7	子どもの食生活の現状と問題点(偏った栄養摂取・ダイエット・肥満など)
8	食文化からみた食教育
9	食嗜好と食習慣の関係
10	食の安全性の確保について(食品表示・食中毒など)
11	学校給食について
12	子どもの食に関する最近のトピック
13	具体的な食指導の事例(1)
14	具体的な食指導の事例(2)
15	試験

評価

出席40点、試験40点、レポート20点により評価する。合格点は60点以上とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる、平岩幹男著『やさしく学べる子どもの食』 診断と治療社

追加してプリントも使用する予定

科目名	IT活用授業演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク(LAN)が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

内容

1. これからの教員、これからのIT活用授業
2. IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3. 普通教室でのIT活用のための準備
4. 実践しやすさから見たIT活用授業
5. ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6. 教科書の写真を大写して吟味する授業の設計
7. デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8. パワーポイントで教材作成
9. 理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10. 電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11. 創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12. 低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13. 校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14. まとめ、課題提出
15. テスト

評価

授業中に行う課題に対する評価(30%)、継続観察レポートに対する評価(30%)、テスト(30%)、出席率(10%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	女性教師論		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本授業は教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、教員に求められる資質能力等を広く理解し、自ら女性としてどのような教員を目指していくかの指針になるような内容で構成する。男女平等参画型社会の中で職業人としての教員の仕事に関する情報を伝えると共に、自立した教員として確固たる信念をもって臨めるよう支援する。

内容

大きく以下の3つの観点を盛り込み、講義や話し合いを交えて授業を構成する。

- (1) 将来女性教師を志す学生にこれまであまり触れてこなかった人権やジェンダーフリーの視点を視聴覚教材や資料を用いて理解させ自覚させる。
- (2) これまで日本の教育に偉大な足跡を残してきた女教師を取り上げ教育史的視点への関心を持たせる。
- (3) また、小学校の現場でさまざまな学習・生活指導にどのようにかわり対処してきたかの体験を交えて学校現場の実態に関心を持たせ、自分なりの考えをもって捉えさせる。

女性の視点で教師を捉えると言う本講座の概要、これまでに心に残った教師について作文する。

仲間の文章紹介と補足や質疑、教員の資質について分析し伝える。これは毎回初めに数人ずつ扱う。

十文字ことの「春風のように」を視聴して当時の女教員養成や女教員について学ぶ。

大村はまの著作を読んで教師としての大村はまを分析する。

担当者の経験も交えて女教師に欠かせないみがいていく資質を考える。

ベアテシロタのVTR前半から憲法草案(25条)に女性の視点でかかわったことを学ぶ。

後半を視聴し、アメリカの女性が日本の女性の人権に心を砕いたことを知る。

2月に新座市の小学校にボランティアに行き、さまざまな教師に出会った経験談を交流する。

新任女教員の講演会記録等を読み合って教員採用試験に向けての準備等を学ぶ。

教職の意義と職務について再度参考資料を読み、話し合う。

VTR等を視聴したり資料を読んだりして学校教育におけるジェンダーについて触れる。

女教師の著作物を読んで管理職とのかかわりや女性管理職の資質を考える。

いじめや不登校の現状や対応についての経験を語り合い、さまざまな解決方法を探る。

資料から諸外国の教育の現状と日本を比較しこれからの教育を考える。

期末試験

評価

出席状況30点 授業中の課題30点、期末試験40点で総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし

【推薦書】【参考図書】授業中に紹介する。資料は授業で配布する。

科目名	表現活動		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校や幼稚園、保育園の先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（08年度は「利根川」 斎藤喜博・詩、近藤幹雄・曲 に取り組みました（09年度は「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です）。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

小レポート（20点）と試験（80点）などを組み合わせて、総合評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動(1)～(3)』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	教職演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校教育にたずさわる教員として従来から取り組んできた課題や新たに生じてきた課題など、現在の学校教育における課題について、学校現場や児童生徒とのかかわりにおいて具体的に捉え、理解し考察する。

それにより、教職に就いて取り組む必要がある内容についての理解を深めるとともに、教職を目指す者として自己の資質を一層高める。

内容

- 1 ガイダンス
- 2 社会の中から見た教師の役目、位置
- 3 小学校学習指導要領の各教科・各領域の目標・内容・取扱い
- 4 小学校における教育課程(教育指導計画)の編成
- 5 小学校における特別活動(学校行事)の企画・実施・評価
- 6 学力向上に関する課題
- 7 生徒指導に関する課題(現代の問題点とその状況)
- 8 児童生徒の健康・体力に関する課題
- 9 児童生徒の心・意欲を育てることに関する課題
- 10 保護者・地域との係わりに関する課題
- 11 新たに導入されてきた教育指導分野に関する課題
- 12 学校への新しい制度の導入に関わる課題
- 13 小学校教員の年齢構成とそこから発生する教育課題
- 14 各都道府県・政令市の教員採用状況と傾向

評価

小テスト・課題レポート・提出物80点、出席・授業への取り組み20点により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校学習指導要領解説(総則編) 平成20年3月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 各都道府県版の教員採用試験対策シリーズなど

科目名	演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることにする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることにする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	神山 輝夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることにする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることにする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	01クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	演習		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)では、大学における初等教育及び幼児教育の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを指導教員の指導を得ながら、身につけることをねらいとしている。各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを学ぶ。最終的に、4年次の卒業研究のテーマに絞り込んでゆく。演習は、ゼミ単位のグループ活動であり、グループの個々のメンバーがどのような態度をとるか、グループ全体としてどのように行動するかが大切な要素になる。

3年の演習(ゼミ)は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

内容

演習(ゼミ)は、ゼミ生の自主的な活動を前提にし、各自の興味・関心に応じて、研究方法や内容を組み立てることとする。演習の進め方は、小人数の討論形式で行うことを基本とする。

前期は、各自の興味・関心のあるテーマ(論文や文献でもよい)を決めて、発表分担者を決定し、発表、質疑応答、討論、まとめを1単位(30~45分程度)とし2~3名ずつ担当する。発表分担者は、その論文のテーマについて事前にまとめ、自分自身の意見をまとめておく(自分なりの調査を行っても良い)。他のメンバーは同じ論文が事前に配布されている場合は、その論文を読んで提起したい問題点を2,3書き留めておく。必要なら自分で調査を行っても良い。

ゼミの当日は、発表者が論文(文献)のまとめを発表し、自分の見解を述べる。初めに質疑応答を行い、発表者は他の資料などを使って、質問に答える。疑問点などは、その後の討論で深めあうようにする。

後期には、指導教員の研究分野あるいは各自の興味・関心を持つ研究分野について、卒業研究のテーマ選択に向けて、資料・文献の収集や調査などの下準備にとりかかり、その過程をゼミの中で発表し、研究手法や実験手法、創作手法などを共有していく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が論文や発表に現れていることが評価対象である。常に担当教員やゼミ生と共同し、協調して取り組み、研究経過を報告しているかどうかの途中の評価(40%)、研究内容、研究方法、及び提出物の評価(60%)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度推薦する

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園教諭免許状取得のための保育現場における総合的実習である。

小学校教諭免許状取得のために4週間の小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

幼稚園教育専門科目の内容と、実習園での実習内容とを結合させ、教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとすることを目標とする。

幼稚園での教育実習を体験することで、大学で学習した理論や教育方法を活用しながら、幼稚園教諭を目指すものとして必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を付けることを目標とする。

内容

本科目は、小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は2週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

事前学内指導、園におけるオリエンテーション、事後指導を含む。

実習中は毎日保育日誌を書き、幼児集団を指導する部分実習(数回)および責任実習(1日)を行う。

部分実習・責任実習においては指導計画を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

評価

実習指導園から評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。評価の観点は事前指導にて示す。実習日誌、事前事後指導における出席、提出物等も評価対象になる。

事前事後指導中の取り組み態度および実習日誌等の提出物を30%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢および実習園の成績評価等を70%、として総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指定する。